

震災記念堂の設計競技応募図案に見る 大正期建築デザインの傾向

姜 明 采

KANG Myungchae

非文字資料研究センター 2015 年度奨励研究採択者
神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻 博士後期課程

【要旨】 大正期は、(短い間であったにもかかわらず社会全般に大きな変化をもたらしており、こうした変化に影響を受けた建築界でも、) 新しい建築への数多くの試みとして様々な建築様式が登場してきた時期である。本稿は、こうした大正期における建築デザインの動向を検討するため、1924 (大正 13) 年 12 月 22 日より 1925 (大正 14) 年 2 月 28 日まで実施された震災記念堂の設計競技に注目した。震災記念堂の設計競技応募図案は現在、全 221 案のうち設計競技の当選図案図集である『大正大震災記念建造物競技設計図録』に掲載された 36 案の当選図案と、震災記念堂の収蔵庫に収蔵されている 39 案の選外図案の 75 案が残存している。設計競技の当選図案とこれまで公開されていなかった選外図案の外観デザインを対象に、当時流行した建築デザインの要素とその傾向を考察することを本稿の研究目的とした。立面図や透視図などで外観の形状がわかる 74 案の応募図案を古典主義風、表現主義風、アール・デコ風、モダニズム風、和風、東洋風の 6 つのデザイン様式に分類し、各様式で最も多く見られたデザインの要素をまとめた結果、以下のことが明らかとなった。

まず、全体的な外観形状としては、不要な装飾的要素を抑え、ジグザグ風デザインや直線を多く用いて垂直性を強調した計画が多く見受けられた。また、ドーム屋根に左右対称の縦長開口部を多く用いた古典主義風の塔の形状とした「コンペティションスタイル」との類似性も見られ、すっきりしたモダンなデザインと均衡が取れた古典主義風デザインが共存していた様子がうかがえた。更に、その細部には、単純幾何学的装飾の反復と変形アーチの開口部などの装飾の要素を設けられ、設計者の個性を発揮したことが考えられる。こうしたシンプルな外観と個性的な細部装飾のデザイン要素から、大正期における建築デザインの動向が読み取れたと考えられる。

The Trend of Architectural Designs in Taisho Period through the Design Competition of the Memorial Hall for Great Kanto Earthquake

Abstract : In Taisho Period, architects conceived a variety of different styles, striving for new designs. This study take a close look at the Memorial Hall for Great Kanto Earthquake Design Competition held from December 22, 1924 to February 28, 1925, and attempt to reveal architectural trends in the era. Seventy-five of the 221 designs submitted to the competition have remained to date, with 36 contained in the collection of Designs Awarded in the Memorial Hall for Great Kanto Earthquake Design Competition; 39 designs did not meet the award criteria but continue to be stored in the Memorial Hall Archive. So, this study analyzes the external appear-

ance of the designs that are elected one and unselected one that have not been open to public viewing to examine the prevailing design elements and the design trend. The elevation and perspective plan of Seventy-five designs which shows the shape of the external appearance have classified 6 types of design style; Classicism, Expressionism, Art-Deco, Modernism, Japanese-temple Style, Oriental-temple Style, and clarified the most frequent elements in each style.

First, lots of the external appearances of designs were appeared to restrain the unnecessary decorative elements and stack the floor like ziggurat style, also emphasize the verticality using the vertical line. And, there were also appeared 'Competition Style' which is the classical tower shape using dome-like roof and the opening which are vertically symmetry. Therefore, it makes clear that Neat modern design and well-balanced classical design coexist in that time. Furthermore, it can be considered that designers demonstrate their individuality in details, like the repetition of the simple geometric design and deformation arch opening, etc. Thus, this study can be assumed to read the trend of the architectural design in Taisho period, the simple exteriors and unique details.

はじめに

19世紀末から20世紀までのヨーロッパの建築界では、それまでの主流であった歴史主義に反して新しい表現や理論を求めた様々な近代建築運動に伴い、モダニズム建築への試みとして新しい建築様式が⁽¹⁾続々登場していた。そうした変化に対して日本の大正期の建築界では、欧米で派生したモダンな建築様式の導入と共に、明治以降続けられてきた欧米の様式主義の模倣から脱却した日本独自の建築様式の追求といった、多様な建築様式が出現していた。具体的には、曲線を用いたアール・ヌーヴ⁽²⁾の導入、直線と平面を主な構成要素としたセセッション⁽³⁾、第一次世界大戦以後に広がった表現主義⁽⁴⁾の導入と共にその様式を旗印として新しい建築を追究した分離派建築会⁽⁵⁾による日本初めての近代建築運動の開始、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトに影響を受けたライト式⁽⁶⁾の登場、建物細部に古典主義⁽⁷⁾などの歴史主義⁽⁸⁾やアール・デコ⁽⁹⁾の要素を組み合わせた設計手法などである。一方、西洋風の建築様式をそのまま受け入れるだけではなく、日本の伝統的な表現の工夫などが⁽¹⁰⁾挙げられる。こうした大正期の動向は、建築家たちの言説や当時の建築から読み取ることができ、それらを対象とした数多くの研究が⁽¹¹⁾行われてきた。

ところで、当時実施された建築設計競技のうち、公開設計競技（以下、本稿では『設計競技』と称す）は、すべての人々に同一の機会が与えられ、自らの腕を発揮するチャンスであったため、多くの人々が参加した。人々が応募した図案には、それまでになかった斬新なスタイルや当時の流行を反映したものなどが提案されていたことから、本稿は当時のデザインの動向を断面的に読み取る見本として設計競技の応募図案に着目して当時の建築デザインの傾向を明らかにすることを⁽¹²⁾目的とした。すなわち、設計競技の当選図案と共に、これまで資料の不在を主な理由として公開されず、かつ、研究資料として検討されてこなかった選外図案の外観デザインを分析することは、ひとつの設計競技の全体像を解明する知見となり、なおかつ、大正期に通用された建築デザインの動向を読み取る知見ともなると考えられるからである。

研究資料・方法

本稿は、大正期に実施された設計競技のうち、1924（大正13）年に実施した震災記念堂（現東京都慰霊堂、以下本稿では『震災記念堂』と称す）の設計競技に注目した。納骨、慰霊、展示の機能を持つ関東大震災の代表的記念建造物として被服廠跡（現東京都墨田区）に計画された震災記念堂は、より多くの人々の力を用いて建てられるべきということで、1924（大正13）年12月22日より1925（大正14）年2月28日まで設計競技が実施された。221の応募があり、人々の注目を浴びた設計競技のひとつであった。この応募図案は現在、全221案のうち『大正大震災記念建造物競技設計図録』に掲載された36案の⁽¹³⁾当選図案と震災記念堂の収蔵庫で発見した39案の⁽¹⁴⁾選外図案の75案が透視図を中心に残存している。こうした応募図案には、多くの人々が訪れるであろう象徴的な建築物となることを意識して、図案応募者たちがその外観に当時の主流であったデザインの要素を多用していたことが推察できる。

この75案の応募図案のうち、外観のデザインがわかる74案の立面図・透視図を本稿の基本研究資料として用いた。それらに見る外観デザインの要素を、『建築大辞典第2版』⁽¹⁵⁾『建築学用語辞典』⁽¹⁶⁾らの建築辞書と『テキスト建築の20世紀』、『新建築学大系5近代・現代建築史』⁽¹⁷⁾、『日本の近代建築（下）』⁽¹⁷⁾らの文献資料に記された建築様式の定義と照らし合わせた結果、74案の外観では当時流行した古典主義・表現主義・アール・デコ・モダニズム・和風・東洋風の6つの建築様式のデザイン要素が特定できた。このように応募図案のデザイン要素を各建築様式に分類し、その傾向を分析していく。

I 本稿で分析する応募図案の設計競技について

1924（大正13）年5月25日、『朝日新聞』・『東京日日新聞』・『都新聞』紙上には、東京市が関東大震災で最も多くの被害を受けた被服廠跡（現東京都墨田区）を公園化すること、また、公園内に建つ震災記念堂の設計案と建設費100万円の寄付を一般市民から募集する内容が大々的に掲載された。⁽¹⁸⁾

東京震災記念事業協会主催による震災記念堂の設計競技は1924（大正13）年12月22日から1925（大正14）年2月28日までの期間に実施された。その審査員としては、東京震災記念事業協会理事・岡田忠彦、東京帝国大学教授・塚本靖、東京帝国大学教授・伊東忠太、東京美術学校校長・正木直彦、東京女子高等師範学校講師・佐藤功一、東京市臨時建築局局長・佐野利器、及び東京市公園課課長・井下清の7人の名が連ねられていた。その公募規定は以下の通りである。（一部抜粋）

「大正大震災記念建造物設計圖案應募者心得」から抜粋

- 一 本建造物ハ敷地ノ要部ニ之ヲ建設シ周圍ニ樹木泉池ヲ配シ以テ大震災ヲ永久ニ記念シ併セテ遭難者ノ靈ヲ弔慰シ且ツ祭典ヲ執行セントスルモノナリ仍テ應募者ハ深く此點ニ留意シ可成實地踏査ノ上設計セラレタキコト
- 二 遭難者ノ遺骨ヲ納メ祭典ハ宗教的ノ儀式ニ依ルコトアルヘキヲ似テ此點顧慮セラレタキコト

「大正大震災記念建造物設計圖案募集規定」から抜粋

第三條 設計要件左ノ如シ

- 一 建築敷地ハ東京市本所區横網町二丁目横網公園（陸軍被服廠跡）ニ於ケル別紙圖面ノ點線區域トス
- 二 建物ハ東京ニ於ケル大正十二年ノ大震災火災ヲ記念シ併セテ遭難者ノ靈ヲ弔靈シ尚祭壇トシテ應用シ得ルモノタルコト
- 三 建物ハ耐震火及耐久的構造トシ建築材料ハ已ムヲ得サルモノ、外本邦産ヲ用フヘシ⁽¹⁹⁾

震災記念堂の設計競技の規定には、耐震耐火構造で、犠牲者を慰霊する祭壇として用いる空間を求めるなどの設計要件が示されていた。ただ、建築様式に関する条件は「遭難者を慰霊し、祭典などの宗教的儀式を行う場としての建築的機能を顧慮すること」と慰霊祭祀の施設として相応するべきだと記されていたが、具体的な建築様式についての言及は一切記されていなかった。

II 設計競技の応募図案に影響を与えたと考えられる建築デザインについて

震災記念堂設計競技の実施に対し、東京市公園課と東京市臨時建築局はそれぞれ計画図案を公表した。当初、震災記念堂の建設は東京市の復興事業の一環として計画され、その設計を担当した東京市公園課課長・井下清⁽²⁰⁾は1924（大正13）年5月、震災記念堂の計画案を完成した（図1）。井下の計画案は、一部を納骨堂とする八角形記念堂に震災記念品や絵画を飾り付ける円形の回廊を持つ、鉄骨鉄筋コンクリート構造の野外祭場的建造物⁽²¹⁾であった。この野外祭場は、追弔会や記念祭などの祭典法要や講演会に使うよう計画されており、「第1次世界大戦の国家墓地としてワシントン府の正面に設けられておるアーリントンの戸外式場⁽²²⁾のやうなものを日本の形式で建てたい⁽²³⁾」という井下の言説から、アーリントン墓地に附設されている円形劇場を見本としたことが推察される。また、その「建築様式は奈良朝時代とし、其の局部手法に於て大正時代を現はさん⁽²⁴⁾」とし、八角堂の形状や屋根上に見る相輪⁽²⁵⁾、そして開口部の連子窓⁽²⁶⁾と風鐸⁽²⁷⁾などの装飾的要素から、井下は震災記念堂を納骨や慰霊の機能を考慮した和風の社寺建築様式で計画していたことが考えられる。

しかしながら、井下の計画案は東京市による復興予算の不足を主な理由として実現できず、同年8月17日に八角堂の井下案を中心とした被服廠跡の震災記念公園の配置計画案が設計競技に関する基準案として発表⁽²⁸⁾された。

一方、同年9月13日、東京市臨時建築局は設計競技の参考案として新たに設計した震災記念塔を一般に公開⁽²⁹⁾した（図2）。その背景として、当初東京市は震災記念堂事業を被服廠跡の公園化事業の一部とし、公園課に事業を一任していたが、設計競技の実施により建物を中心とする事業として、建築局から設計競技の参考案を発表することになったことが考えられる。

東京市臨時建築局の参考案は、大池の中央に塔状の建物を配置し、内部に参拝所と陳列室を計画したものであった。和風の井下案とは異なるこの案は、円筒状のものを4段積みにした垂直性を強い形状で表現主義風の要素を用いながら、全体的には装飾の少ないモダンなデザインであった。

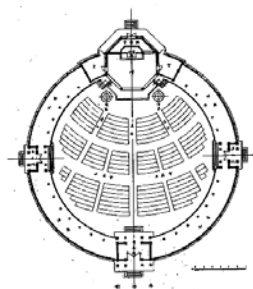


図1 井下清の震災記念堂計画面

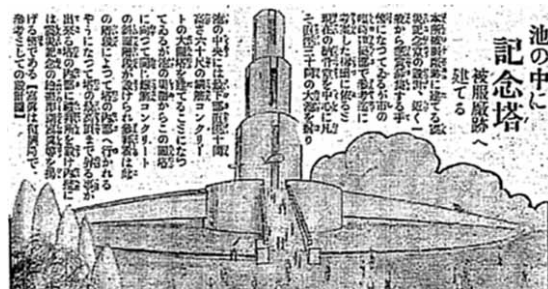
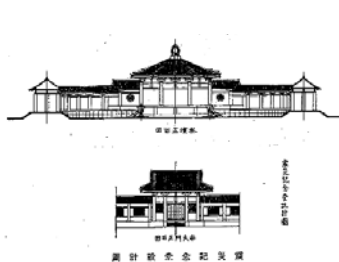


図2 建築局による震災記念堂の設計競技参考案

III 設計競技に応募した応募者について

この度、震災記念堂の設計競技図案応募者名簿である『記念堂設計図案収受簿』⁽³⁰⁾が震災記念堂の収蔵庫で新たに発見できた。そこに記された221名の設計競技図案応募者の情報と、1924(大正13)年と1929(昭和4)年、1934(昭和9)年の『建築学会会員住所姓名録』⁽³¹⁾による建築学会会員の情報を照合した結果、震災記念堂の設計競技に応募した180名の図案応募者の氏名や住所、職業を特定することができた。その中で本稿で扱う74案の図案応募者の氏名と職業をまとめたのが〈表1〉である。

〈表1〉『記念堂設計図案収受簿』から見る震災記念堂設計競技応募者について

No.	設計者	職業 (T13)
1	前田健二郎	第一銀行建築係
2	大澤 造	建築設計監督工務所
3	加藤函一	大倉土木株式会社建築部 (S4)
4	大倉三郎	宗建築事務所
5	相賀兼介	大野木、櫻井共同建築事務所
6	二本松孝蔵	造神宮技手、造神宮使庁
7	雪野元吉	宮内省内医寮臨時帝室博物館造営課宮内技師 (S9)
8	吉川清作	會禰中條建築事務所 (S4)
9	佐藤武夫	早稲田大学建築学科助教授
10	—	—
11	—	—
12	前田健二郎	第一銀行建築係
13	堀崎秋生	明治神宮外苑課
14	柴村種吉	—
15	長根助八	東京市建築課芝区役所庁舎建築現場 (S4)
16	岸田日出刀	東京帝国大学建築学科教授
17	—	—
18	—	—
19	森本建築社	森本建築社
20	前田健二郎	第一銀行建築係
21	—	—
22	—	—
23	—	—
24	—	—
25	—	—
26	桜井 博	中村田辺建築事務所
27	増井一夫	横浜市建築課技手 (S9)
28	雪野元吉	宮内省内医寮臨時帝室博物館造営課宮内技師 (S9)
29	雪野元吉	宮内省内医寮臨時帝室博物館造営課宮内技師 (S9)
30	村松秀夫 岩田透繼	東京市電気局臨時建設部 東京工業試験所
31	山田 守	逓信省経理局営繕課
32	—	—
33	吉田安太郎	大阪府庁営繕課
34	加村勝一	神戸高等工業学校建築学科学生
35	—	—
36	—	—
37	長島重信	東京市役所臨時建築局
38	鈴木史雄	米国建設合資会社
39	野田一夫	清水組動力銀行現場 (S4)
40	松本郡録	—
41	仙波虎五郎	—
42	野田義勝	—
43	—	—
44	—	—
45	熊本善蔵宇勝	—
46	田中豊巳	—
47	石川 旭	陸軍技手第六師團経理部工務科 (S4)
48	—	—
49	—	—
50	田丸潤身	臨時議員建築局
51	—	—
52	—	—
53	郡 眞一	藤木工務店 (S4)

54	奥本一郎	—	65	中原常義	—
55	福田定右衛門	丸ノ内商工社 (S9)	66	山野井菊弐	荒井組
56	大原芳知	住友合資会社工作部建築課 (S4)	67	—	—
57	元良 勲	京都帝国大学建築学科学生	68	—	—
58	田間齋次郎	陸軍技手	69	白形 要	松山市役所土木課
59	庄司螢造	—	70	青木北星	—
60	長谷部鋭吉	住友合資会社工作部建築課	71	丸山 信	丸山信建築事務所 (S4)
61	—	—	72	木村平五郎	横河工務所
62	青木虎之助 中平市之介	文部省建築課長岡出張所 —	73	—	—
63	—	—	74	—	—
64	岡本英雄	—			

※ 当選図案は「案 No.」項目に色付けし、応募者の職業は大正 13 年発行の『建築学会会員住所姓名録』を基準とする。

〈表 1〉によると、震災記念堂の設計競技に応募された 74 案のうち 39 案の図案応募者が建築業に携わっており、こうした専門性の高い人々が設計競技に多く参加していたことが明らかとなった。また、応募者の中には東京帝国大学建築学科教授・岸田日出刀など、日本の建築界の中心にいた人も参加しており、この設計競技の応募図案を分析することで当時の建築界の実態が解明できると考えられる。

IV 設計競技応募図案のデザイン分析について

震災記念堂の設計競技応募図案として収集できた 75 案のうち、立面図と透視図など外観の様子がわかる 74 案を分析するため、応募図案で多く見られたデザイン要素と大正期に流行した建築様式について参考文献に記された定義を照合し、6 つの建築様式が特定できた。

IV-I 建築様式による分類

辞典や文献資料に記述された建築様式の特徴のうち、透視図や立面図など、外観がわかる応募図案から読み取れるデザインの要素を取り上げた。それらをまとめたのは以下の通りである。

・古典主義風（ルネサンス建築）

古典主義は、ギリシャ建築・ローマ建築を範とするルネサンス建築や新古典主義建築など、主にオーダー⁽³²⁾を用いる建築を総称する建築様式であり、本稿では、15～16 世紀にかけて教会堂建築と宮殿、市庁舎などの公共建築を中心に発展したルネサンス建築様式を古典主義風として扱うこととした。ルネサンス建築は、「古代ローマ建築のアーチ・ヴォールト構造や柱頭形式、装飾モチーフを採用し、建築各部の比例的調和、左右対称、均斉、形式の簡素・明瞭性などを重んじ、前時代のゴシックの垂直性に対して水平線を強調するなどの特徴⁽³³⁾」が挙げられる。このうち、本稿では、応募図案から読み取れた以下の 2 要素を取り上げて「古典主義風」として分類する。

- ① ドーム屋根やオーダー
- ② 連続したアーチ窓と縦長窓、列柱を用いた左右対称の空間構成⁽³⁴⁾

・表現主義風

表現主義は「自由曲面や鋭角を多用し、個人の感情の表出をめざした⁽³⁵⁾」、1900～1920 年代に興った

建築様式である。その特徴として、本田昌昭・末包伸吾は「エッジを明瞭にした立体やガラスで覆いつくされた空間、幾何学図形の反復、生物のような形態への偏好とそれによる曲線・曲面の多用、多色彩、古代建築や異国の見慣れない建築への興味、理想郷あるいは空や宇宙へのあこがれ、モチーフとしての断崖や鍾乳洞といった自然の大地、神秘的な思想との結合、地域性や伝統の誇張など、幻想的、ロマン主義的特徴をもち、建築家個人の圧倒的な構成によって生み出されたもの⁽³⁶⁾」を挙げている。このうち、本稿では、応募図案から読み取れた以下の3要素を取り上げて「表現主義風」として分類する。

- ① 垂直性を強調した高層計画と鋭角の要素
- ② 一定の形にとどまらず、自由な曲線を用いた立面構成
- ③ 外観に用いた変形のアーチ開口部と独特な装飾⁽³⁷⁾

・アール・デコ風

1920～1930年代に栄えたアール・デコは、「ジグザグ、人体のヌード、ジグザグ、八角形の形態、単純幾何学的要素、流線型、蛇行の模様、弓型、力強く情熱的な様子、華の枝のような模様⁽³⁸⁾」を用いた建築様式である。このアール・デコは1925（大正14）年のパリ万国装飾美術博覧会で花開いた建築様式で、震災記念堂の設計競技が実施された1924（大正13）年には存在しない概念であるが、応募図案の中にアール・デコの要素が多く見られたため、本稿では、アール・デコを取り上げた。このうち、本稿では、応募図案から読み取れた以下の3要素を取り上げて「アール・デコ風」として分類する。

- ① 同一形状の層が異なる大きさで並ぶ、ジグザグ風デザイン
- ② ジグザグや放射線、植物を形象化した流線型など、単純幾何学的デザイン要素の反復
- ③ 人体を形象化した装飾（彫刻）⁽³⁹⁾

・モダニズム風

1920年代後半から登場したモダニズムは、新材料と新技術を用いながら、「装飾性を排して合理性や機能性を重視する⁽⁴⁰⁾」建築様式である。モダニズムも震災記念堂の設計競技が実施された1924（大正13）年には存在しない概念であるが、応募図案の中にモダニズムの要素が多く見られたため、本稿では、モダニズムを取り上げた。こうしたモダニズムの特徴として、藤森照信は「ツルツルピカピカした箱⁽⁴¹⁾」と、また、モダニズム建築の代表的建築家・ル・コルビュジエはこうした「新しい建築の5つの要点」について「ピロティ、屋上庭園、自由な平面、横長連続窓、自由な立面⁽⁴²⁾」を挙げている。このうち、本稿では、応募図案から読み取れた以下の2要素を取り上げて「モダニズム風」として分類する。

- ① 装飾を抑えたシンプルデザイン
- ② ガラスや鉄など、新材料の使用と、連続した横長窓の要素

・和風

和風は日本在来の建築様式で、本稿では日本伝統寺院建築の要素を持ち、和様・唐様・天竺様を含める様式として扱うこととする。なお、応募図案から読み取れた以下の4要素を取り上げて「和風」として分類する。

- ① 方形、切妻、入母屋⁽⁴³⁾などの屋根形状

- ② 相輪をアレンジした装飾の要素
- ③ 連子窓と火灯窓など、開口部の形状⁽⁴⁴⁾
- ④ 獅子像や風鐸等の装飾⁽⁴⁵⁾

• 東洋風

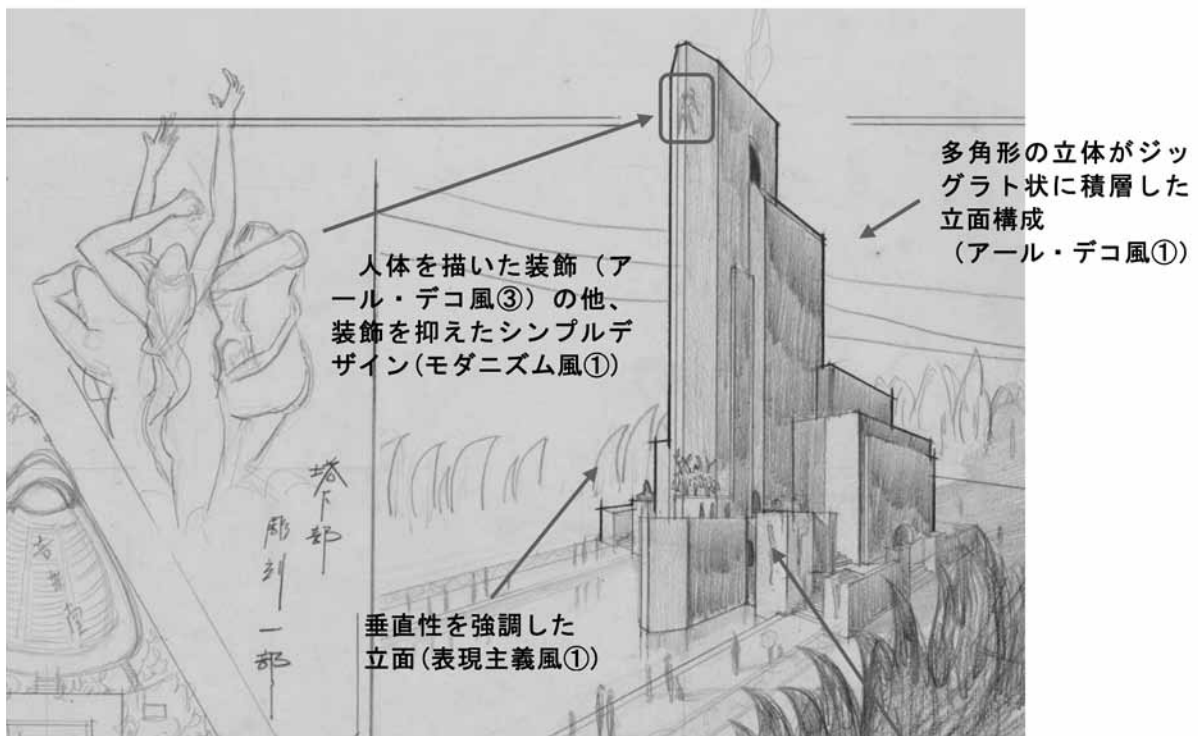
本稿では、寺院建築を中心とした、アジア国の宗教建築で見られるデザイン様式を東洋風として扱うこととする。なお、応募図案から読み取れた以下の3要素を取り上げて「東洋風」として分類する。

- ① ストーパーパをアレンジした屋根形状⁽⁴⁶⁾
- ② 中国やイスラムなどのアジア寺院建築と類似した立面構成
- ③ アラベスクなど曲線の多い装飾⁽⁴⁷⁾⁽⁴⁸⁾

これらの分類項目に従い、図案の分析を行う。その分析例は以下の通りである。

(例) No. 38 鈴木史雄作 • 表現主義風に基調したデザインであると考えられる

└─▶ 応募図案の番号と、それらが基調としている建築様式を示す



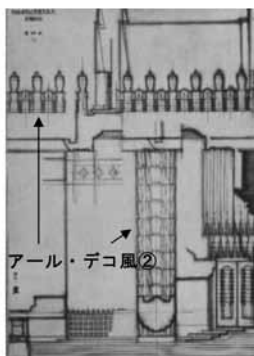
変形アーチ開口部の要素(表現主義風③)

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
		○		○	○		○	○								

IV - II 設計競技応募図案の外観デザイン分析

No.1 一等 前田健二郎作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

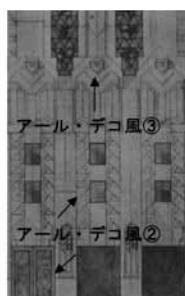
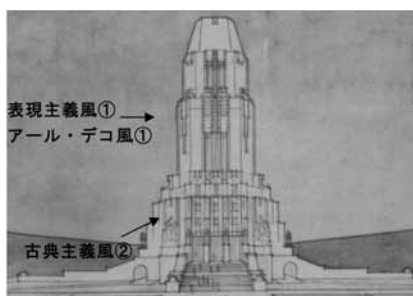


- ・半円形の低層部に設けた高い円筒状の塔
- ・入口に列柱を用いるなど、左右対称の立面構成から全体的に古典主義風の影響が考えられる（古典主義風②）
- ・柱に植物を抽象化した装飾やコーニスにマッチ形装飾など、幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）
- ・塔上部のジグザト状構成（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○										

No.2 二等 大澤造作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

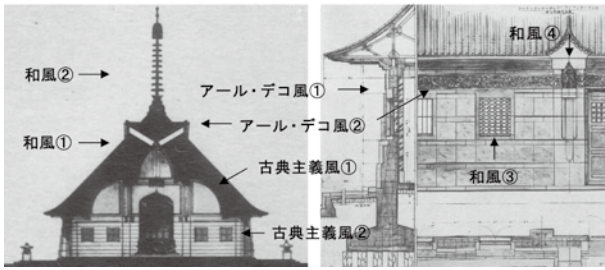


- ・直線を多く用いて垂直性を強調した高塔の立面構成（表現主義風①）
- ・プレート状の層がジグザト状に積層した立面（アール・デコ風①）と、三角形の幾何学的装飾（アール・デコ風②）、人体を描いた装飾（アール・デコ風③）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる

・左右対称の立面に設けた、連続した縦長開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○	○									

No.3 三等一席 加藤函一作 ・和風に基調したデザインであると考えられる



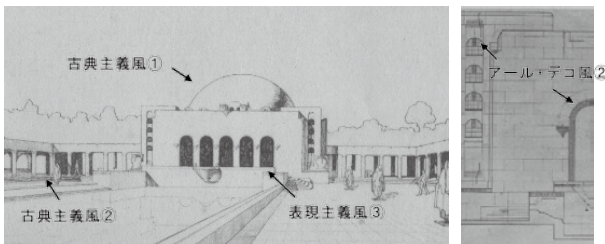
- ・ 方形屋根を用いた本堂の立面構成（和風①）で、千鳥破風・相輪（和風②）、開口部の花狭間（和風③）、風鐸や獅子像の彫刻（和風④）など、全体的に和風の影響が考えられる
- ・ 階段式構造の壁面（アール・デコ風①）、

三角形の天窗や植物を抽象化した装飾など幾何学的装飾（アール・デコ風②）

- ・ ドーム天井と（古典主義風①）左右対称で設けた、連続した縦長開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○				○	○				○	○	○	○			

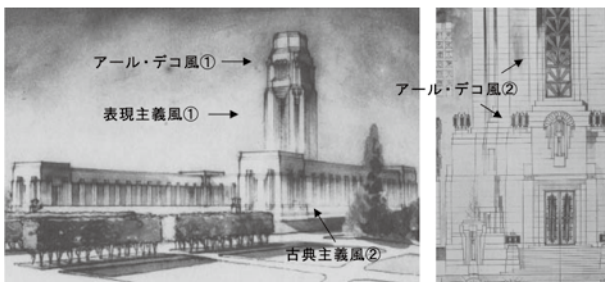
No.4 三等二席 大倉三郎作 ・古典主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・ 列柱で設けたコの字型回廊の中心に（古典主義風②）用いたドーム屋根の本堂の立面構成（古典主義風①）で、全体的に古典主義風の影響が考えられる
- ・ 背の高いアーチ開口部（表現主義風③）
- ・ 植物を抽象化した装飾など、幾何学的装飾（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○			○		○										

No.5 三等三席 相賀兼介作 ・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

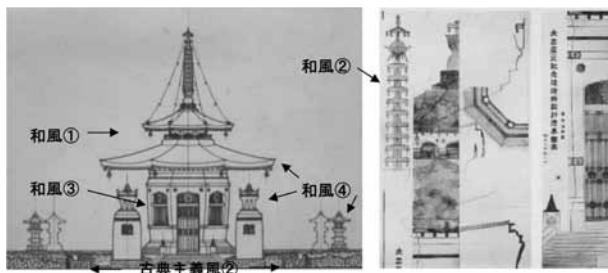


- ・ 列柱で設けたコの字型回廊に（古典主義風②）、垂直性を強調した高塔を用いた立面構成（表現主義風①）
- ・ 塔上部のジグザグ状構成（アール・デコ風①）と、開口部の三角形やジグザグ形の幾何学的装飾（アール・デコ風②）で、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○										

No.6 佳作 二本松孝蔵作

・和風に基調したデザインであると考えられる



- ・六角形の立面に六角形屋根を被せた左右対称（古典主義風②）の立面構成（和風①）
- ・相輪（和風②）や火灯窓と花狭間⁽⁴⁹⁾、連子窓（和風③）、風鐸や春日型の灯籠、香炉塔などの装飾（和風④）で、全体的に和風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○									○	○	○	○			

No.7 佳作 雪野元吉作

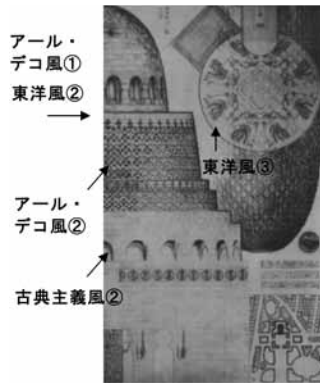
・モダニズム風に基調したデザインであると考えられる



- ・地下室に納骨堂及び陳列室を設けた、古典主義のオーダーを連想させる塔の立面構成（古典主義風①）であるが、全体的には装飾性を抑えた（モダニズム風①）、全体的にモダニズム風の影響が考えられる
- ・塔上部に見る相輪の水煙のような装飾（和風②）
- ・コーニスに用いた半円形の幾何学的装飾（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○						○		○			○					

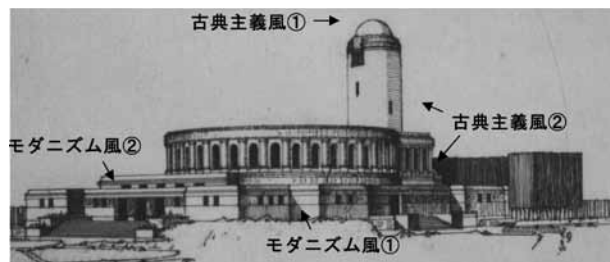
No.8 佳作 吉川清作



- ・東洋風に基調したデザインであると考えられる
- ・九体の層をジグザグ状に積層した（アール・デコ風①）塔の立面構成であるが、全体的にイスラム寺院建築（中国・蘇公塔）の影響が考えられる（東洋風②）
- ・非定型化したドーム屋根と床面に人々を描いた東洋風の装飾（東洋風③）
- ・左右対称の、連続したアーチ開口部（古典主義風②）
- ・開口部に植物を抽象化した丸形の装飾（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○									○	○

No.9 佐藤武夫



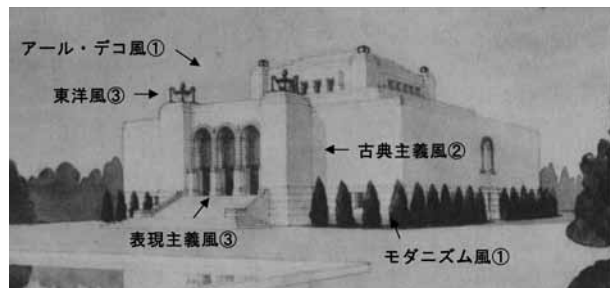
- ・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

- ・凸凹した箱型の低層部に円形回廊と円筒状の塔を設けた立面構成
- ・ドーム屋根（古典主義風①）と、左右対称で設けた縦長開口部とアーチ開口部（古典主義風②）で、全体的に古典主義風の影響が考えられる

- ・連続した横長開口部（モダニズム風②）と、装飾性を抑えた箱型の低層部（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○							○	○							

No.10



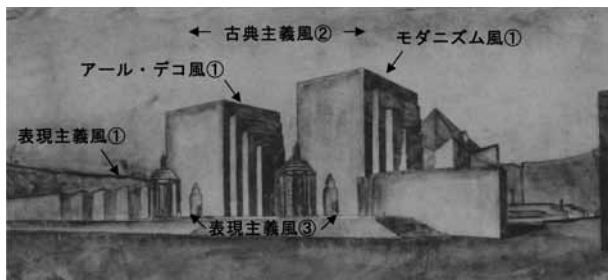
- ・モダニズム風に基調したデザインであると考えられる

- ・装飾を抑えた箱型（モダニズム風①）をジグザグ状に積層した立面構成（アール・デコ風①）から、全体的にモダニズム風の影響が考えられる
- ・入り口の柱上に設けた東洋風の香炉（東洋風③）
- ・左右対称の立面に設けた（古典主義風②）、背の高いアーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○			○	○			○								○

No. 11

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



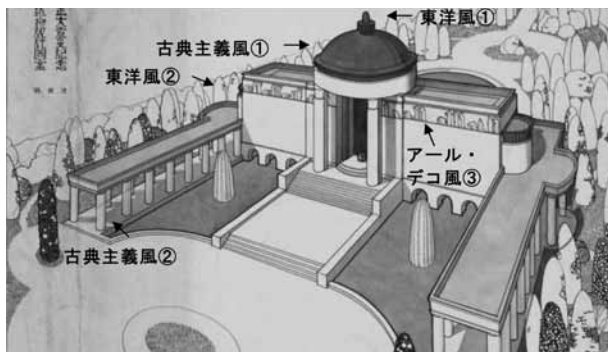
- ・フラット状の模様をジグザグ状に積層した（アール・デコ風①）、左右対称の立面（古典主義風②）
- ・水平性を強調した立面と（表現主義風①）、背の高い変形アーチ開口部（表現主義風③）から全体的に表現主義風の影響が考えられる

・装飾性を抑えた箱型デザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○	○			○								

No. 12 前田健二郎作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

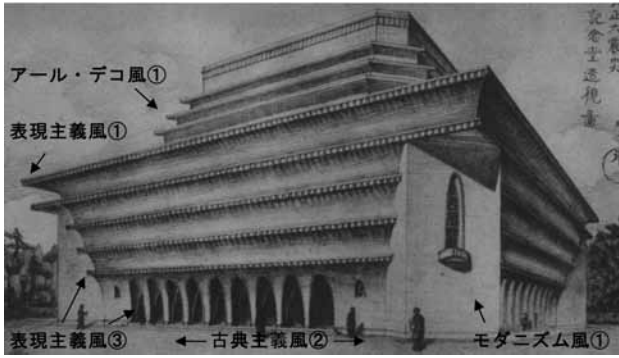


- ・列柱で設けた回廊（古典主義風②）を中心に用いたドーム屋根（古典主義風①）の本堂の立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・ドーム屋根の上部に見るインドのストゥーパと類似な装飾（東洋風①）
- ・コーニスに人体を描いた装飾（アール・デコ風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○						○							○	○	

No. 13 堀崎秋生作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

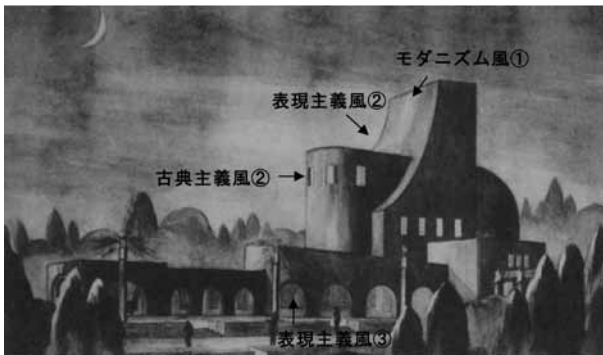


- ・シンプルなプレート状の層が逆ジググラト・ジググラト状に積層した立面構成（アール・デコ風①）
- ・直線と鋭角の多い立面（表現主義風①）と、軒に設けたスリットや背の高いアーチ開口部（表現主義風③）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称（古典主義風②）で、装飾性を抑えた箱型デザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○	○			○								

No. 14 栗村種吉作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

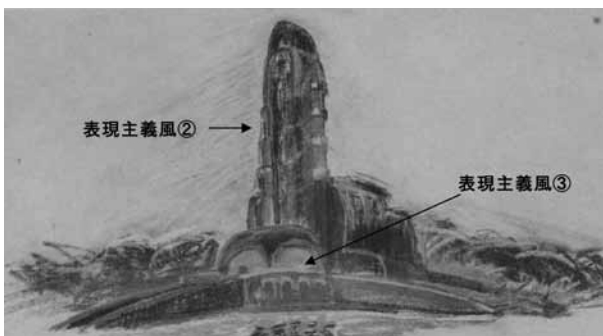


- ・直線と曲線を自由に用いた立面構成（表現主義風②）で表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で設けた、連続した縦長開口部（古典主義風②）
- ・回廊に設けた変形アーチ開口部（表現主義風③）
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○		○	○				○								

No. 15 長根助八作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・曲線を自由に用いた塔の立面構成（表現主義風②）と入り口に用いた変形アーチ開口部（表現主義風③）から表現主義風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
			○	○												

No. 16 岸田日出刀作

・和風に基調したデザインであると考えられる



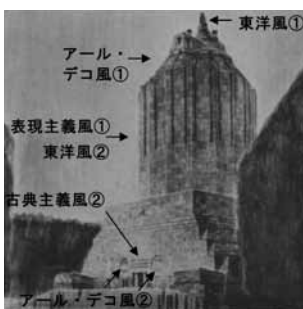
・列柱が並ぶ躯体（古典主義風②）に寄棟屋根と方形屋根を被せた本堂（和風①）と、ワシントン記念塔と類似した塔（モダニズム風①）の立面構成で、全体的に和風の影響が考えられる

・本堂に設けた各屋根の上部に相輪をアレンジした装飾（和風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○							○		○	○					

No. 17

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

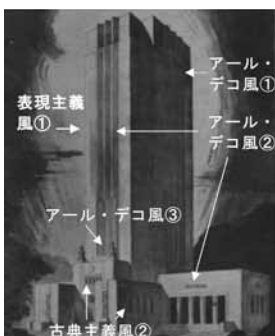


・垂直性を強調した組積造の塔の立面構成（表現主義風①）で、シカラ様式の影響が考えられる（東洋風②）
 (50)
 ・塔の低層部はジグザト状（アール・デコ風①）で、上部にはストウパーをアレンジした装飾（東洋風①）
 ・正面の入り口に左右対称（古典主義風②）で設けた幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○								○	○	

No. 18

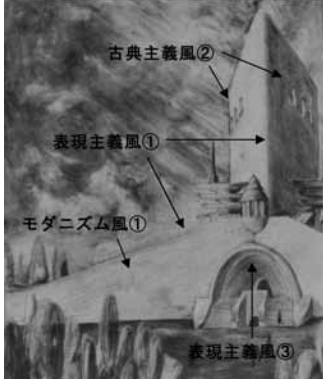
・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる



・直線を多く用いて垂直性を強調した塔の立面構成（表現主義風①）
 ・連続した縦長開口部が左右対称で設けられている（古典主義風②）
 ・塔の中央にある3本の三角柱など、幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）と、入り口の両側に設けた人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）、塔の下部にジグザト状のデザイン（アール・デコ風①）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○	○									

No.19 森本建築社作



- ・表現主義風に基調したデザインであると考えられる
- ・直線と鋭角を多く用いた塔の立面構成（表現主義風①）から表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で設けたアーチ開口部（古典主義風②）
- ・入り口に設けた2重の変形アーチ開口部（表現主義風③）
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○				○								

No.20 前田健二郎作



- ・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる
- ・垂直性を強調した塔の立面構成（表現主義風①）
- ・左右対称で設けた連続した縦長開口部（古典主義風②）
- ・柱に見る半円形の幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）とジグザグ風の構成（アール・デコ風①）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○										

No. 21

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



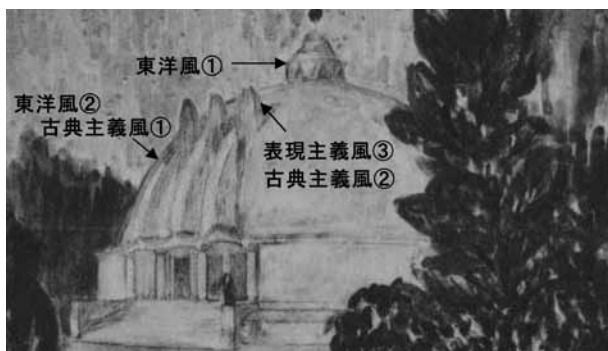
- ・尖頭アーチ開口部を多く用いた（表現主義風③）ジグザグ状の三角塔の立面構成（アール・デコ風①）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・全体的に装飾性を抑えた立面（モダニズム風①）の上にガラスで設けた三角屋根（モダニズム風②）

風①）の上にガラスで設けた三角屋根（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
				○	○			○	○							

No. 22

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

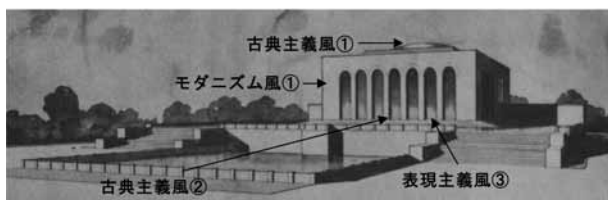


- ・ドーム屋根（古典主義風①）を用いた本堂の立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・ドーム屋根上部にストーパーパをアレンジした、聖火を連想させる装飾（東洋風①）と左右対称で設けた（古典主義風②）変形アーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○			○										○	○	

No. 23

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる



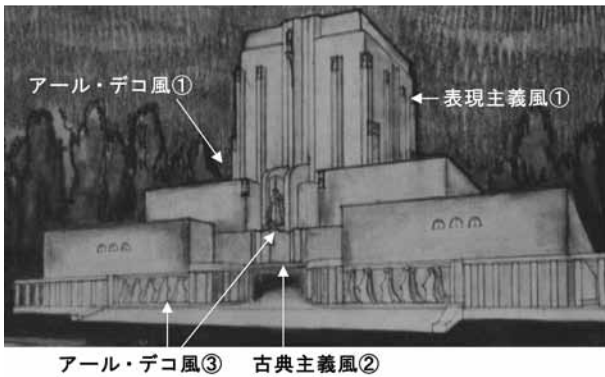
- ・装飾性を抑えた箱型の躯体に（モダニズム風①）ドーム屋根（古典主義風①）を被せた本堂の、左右対称の立面構成（古典主義風②）で、全体的に古典主義風の影響が考えられる

・入り口の背の高いアーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○			○				○								

No. 24

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

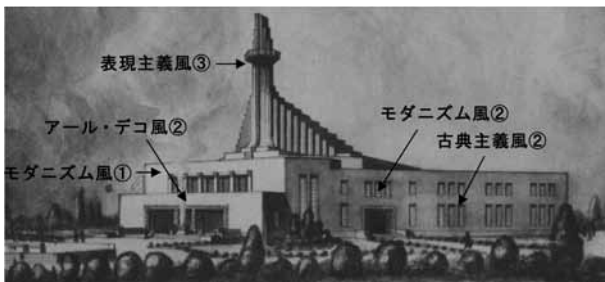


- ・箱型の躯体をジグザグ状に積層した塔の立面構成（アール・デコ風①）と、人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
- ・連続したアーチ開口部など、左右対称の要素（古典主義風②）
- ・直線を多用し、水平性を強調した構成（表現主義風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○		○									

No. 25

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・装飾性を抑えた箱型の躯体（モダニズム①）に十字架の展望台を設けた立面構成（表現主義風③）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・菱形の幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

・左右対称で設けた、連続したガラス張り（モダニズム風②）の縦長開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○			○		○		○	○							

No. 26 桜井博作

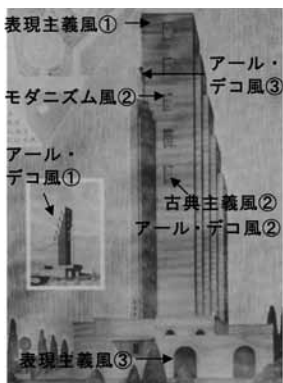
・古典主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・コの字型の躯体にマンサード屋根を被せた左右対称の塔の立面構成で（古典主義風②）、古典主義風の影響が考えられる
- ・入り口に獅子像の彫刻（和風④）
- ・連続した縦長開口部（古典主義風②）
- ・屋根と細部はジグザグ状（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○								○			

No. 27 増井一夫作

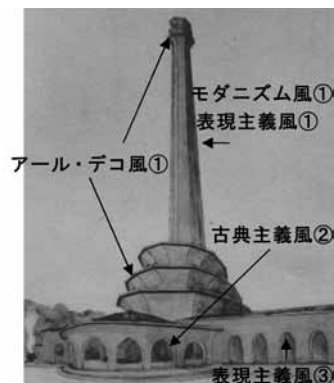


・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

- ・フラット状の模様がジグザグ状に積層した（アール・デコ風①）、垂直性の強い塔の立面構成（表現主義風①）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で設けた、連続したガラス張り（モダニズム風②）の縦長開口部（古典主義風②）
- ・入り口に背の高いアーチ開口部（表現主義風③）
- ・塔の上部に人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）
- ・開口部やコーニスに幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○	○	○	○		○							

No. 28 雪野元吉作



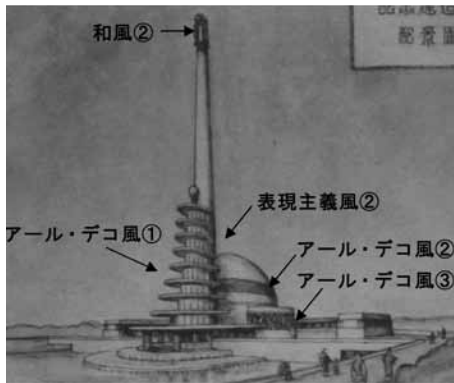
・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

- ・キノコ状のプレートが積層した（アール・デコ風①）、直線を自由に用いて垂直性を強調した塔の立面構成（表現主義風①）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で連続した（古典主義風②）入り口の尖頭アーチ開口部
- ・回廊の背の高いアーチ開口部（表現主義風③）
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○	○			○								

No. 29 雪野元吉作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

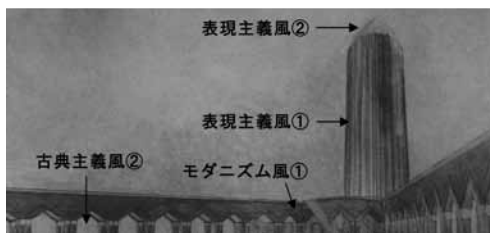


- ・円状の層がジグザグ状に積層した円筒状の塔の立面構成（アール・デコ風①）で、全体的に曲線を自由に用いた（表現主義風②）ことから表現主義風の影響が考えられる
- ・入り口の柱に設けた水玉模様の幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）
- ・人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）
- ・塔の上部に相輪の水煙をアレンジした装飾（和風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
			○		○	○	○				○					

No. 30 村松秀夫 岩田道繼作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



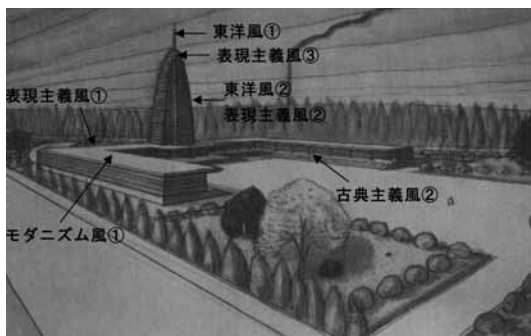
- ・列柱で設けたコの字型回廊（古典主義風②）を中心に用いた多角錐の塔で、全体的に直線を多用して垂直性を強調した立面構成（表現主義風①）から、表現主義風の影響が考えられる
- ・塔の上部に設けた非定形のドーム屋根（表現主義風②）

・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○	○					○								

No. 31 山田守作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



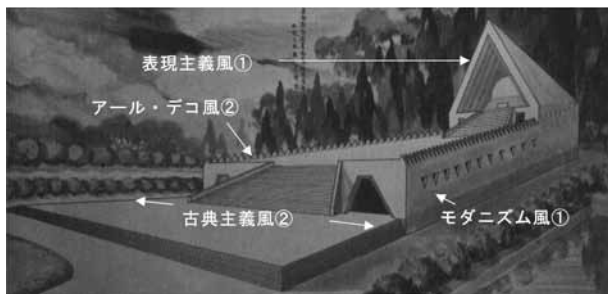
- ・装飾性を抑えたコの字の箱型低層部（モダニズム風①）にシカラ様式と類似の外観の塔を設けた立面構成（東洋風②）で、線と曲線を自由に用いたことから表現主義風の影響が考えられる（表現主義風①・②）
- ・塔に設けたドーム屋根にストーパーパをアレンジした装飾（東洋風①）

- ・左右対称の列柱で用いた低層部（古典主義風②）
- ・屋根上の連続した変形アーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○	○	○				○						○	○	

No. 32

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

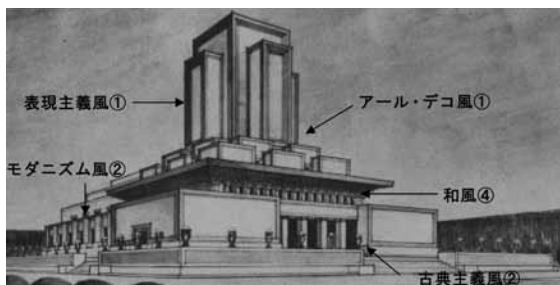


- ・直線と鋭角を多く用いた（表現主義風①）、箱型の立面構成（モダニズム風①）で、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・祭壇と開口部に左右対称で設けた（古典主義風②）三角形装飾の反復（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○				○		○								

No. 33 吉田安太郎作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

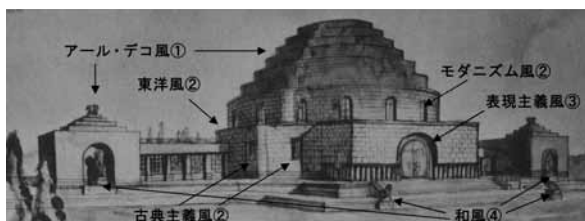


- ・箱型の低層部に直方体を多く用いた（表現主義風①）立面構成で表現主義風の影響が考えられる
- ・低層部の屋根裏に斗とぎょう（51）と見られる要素（和風④）
- ・連続した横長開口部（モダニズム風②）
- ・全体的に左右対称の（古典主義風②）、ジグザト状のデザイン（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○				○				○			

No. 34 加藤勝一作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる



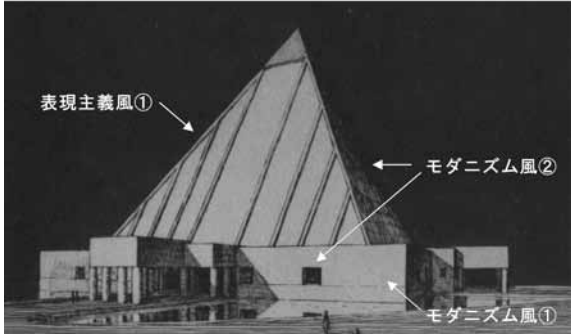
- ・一の字型廊下を中心としてローマ式ドーム屋根をジグザト状で用いた本堂の立面構成（アール・デコ風①）で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・仏像と獅子像などの装飾（和風④）

- ・ガラス張りの（モダニズム風②）縦長開口部（古典主義風②）と背の高いアーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○			○	○				○				○		○	

No. 35

・モダニズム風に基調したデザインであると考えられる

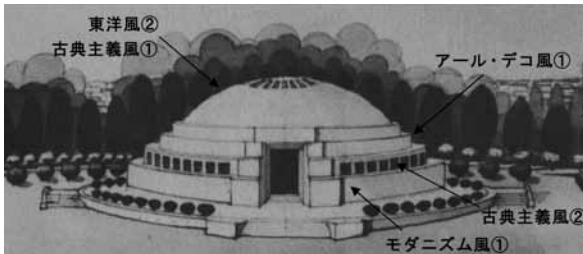


- ・装飾を抑えた箱型の低層部に（モダニズム風①）ガラス張りの三角屋根（モダニズム風②）を設けた立面構成で、モダニズム風の影響が考えられる
- ・直線を多く用いた立面（表現主義風①）に設けた横長開口部（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
		○						○	○							

No. 36

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

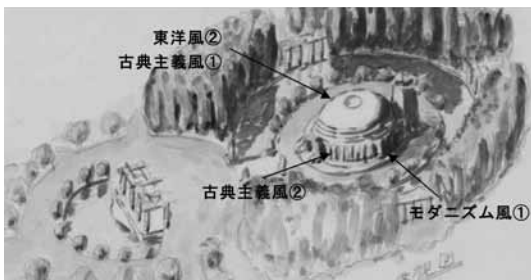


- ・ドーム屋根（古典主義風①）をジグザグ状で用いた（アール・デコ風①）半球体の本堂で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・左右対称で設けた縦長開口部（古典主義風②）
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○				○			○							○	

No. 37 長島重信作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

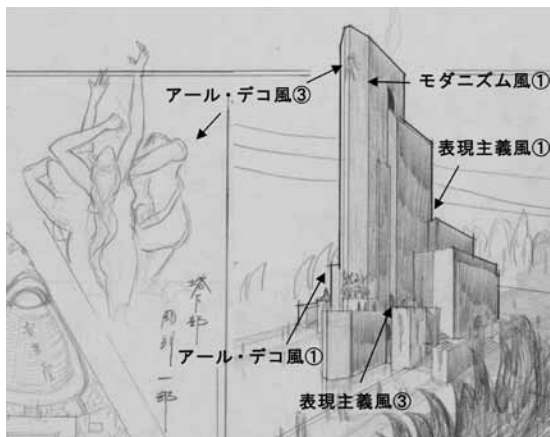


- ・左右対称の列柱が並ぶ躯体（古典主義風②）にローマ式ドームを用いた（古典主義風①）、半球体の本堂と三角屋根を用いた灯台型の塔の立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○							○							○	

No. 38 鈴木史雄作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

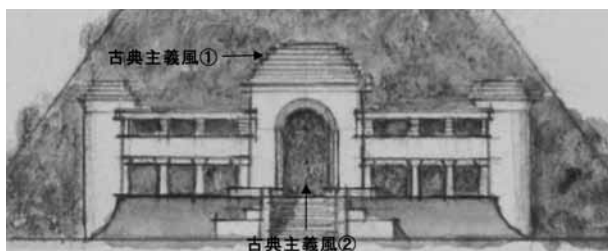


- ・多角形の立体が並ぶジグザグ状に積層した塔の立面構成（アール・デコ風①）で、垂直性を強調したデザイン（表現主義風①）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・変形アーチ開口部（表現主義風③）
- ・塔の上部に人体を描いた装飾（アール・デコ風③）のほか、全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
		○		○	○		○	○								

No. 39 野田一夫作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・左右対称で列柱を設けた古典主義風の躯体（古典主義風②）にローマ式ドーム屋根（古典主義風①）を被せた立面構成で古典主義風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○															

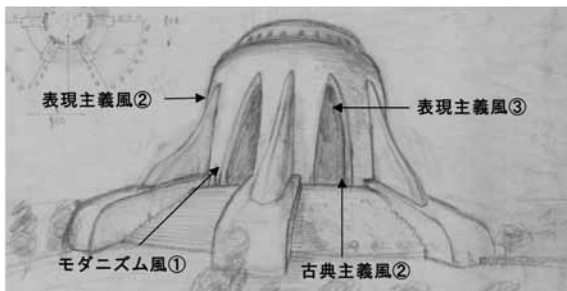
No. 40 松本郡録作



- 表現主義風に基調したデザインであると考えられる
- 楕円状の層がジグザグ状に積層し（アール・デコ風①）で、曲線を自由に用いた塔の立面構成（表現主義風②）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- 各層に用いた変形アーチ開口部（表現主義風③）
- 全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
			○	○	○			○								

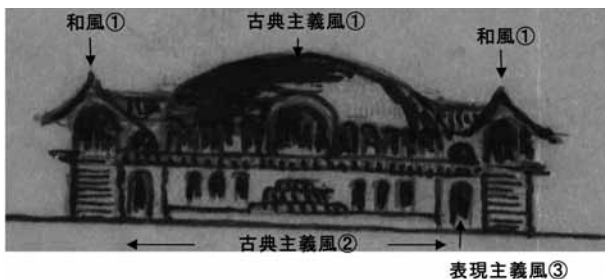
No. 41 仙波虎五郎作



- 表現主義風に基調したデザインであると考えられる
- 曲線を多く用いた立面構成（表現主義風②）と連続した尖頭アーチ開口部（表現主義風③）から、表現主義風の影響が考えられる
- 全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）
- 左右対称の要素（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○		○	○				○								

No. 42 野田義勝作

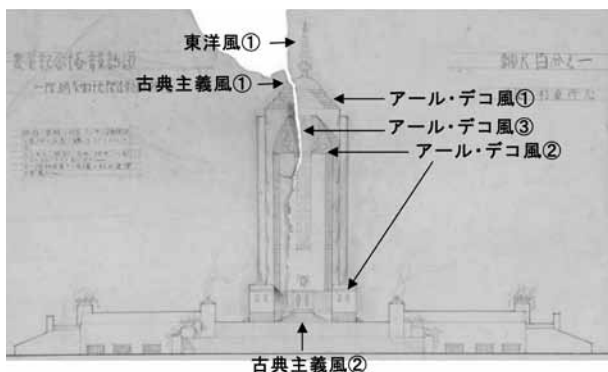


- 古典主義風に基調したデザインであると考えられる
- 箱型の躯体にドーム屋根（古典主義風①）と左右に切妻屋根（和風①）を設けた、左右対称の立面構成（古典主義風②）から、全体的に古典主義風の影響が考えられる
- 連続した変形アーチ開口部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○			○						○						

No. 43

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる



- ・直方体の塔にドーム屋根（古典主義風①）と相輪をアレンジした装飾（東洋風①）を付けた立面構成
- ・プレート状の層がジグザグ状に積層した屋根の構成（アール・デコ風①）、塔の前面に植物を抽象化した装飾や、柱のジグザグした幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）、人体を描いた装飾（アール・デコ

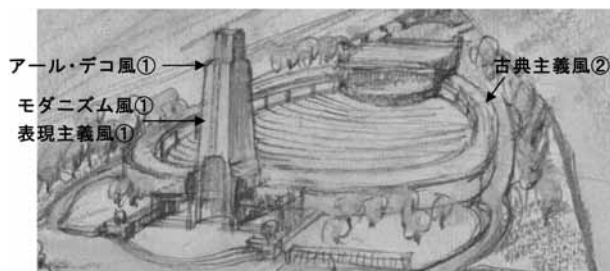
風③）からアール・デコ風の影響が考えられる

・左右対称で設けた縦長開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○				○	○	○							○		

No. 44

・モダニズム風に基調したデザインであると考えられる

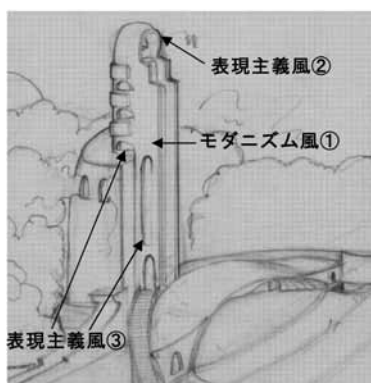


- ・列柱で設けた楕円形廊下（古典主義風②）を中心にジグザグ状に積層した塔を設けた立面構成（アール・デコ風①）で、全体的に装飾性を抑えたこと（モダニズム風①）からモダニズム風の影響が考えられる
- ・垂直性を強調した塔（表現主義風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○			○								

No. 45 熊本善蔵宇勝作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

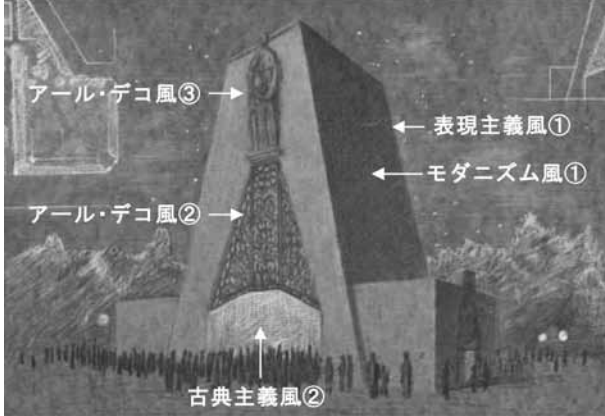


- ・半円形の廊下の中心に曲線を多く用いた塔の立面構成（表現主義風②）で、表現主義風の影響が考えられる
- ・連続した縦長・横長の変形アーチ開口部（表現主義風③）
- ・全体的に装飾性を抑えた（モダニズム風①）、アインシュタイン塔と類似したデザイン

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
			○	○				○								

No. 46 田中豊巳作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

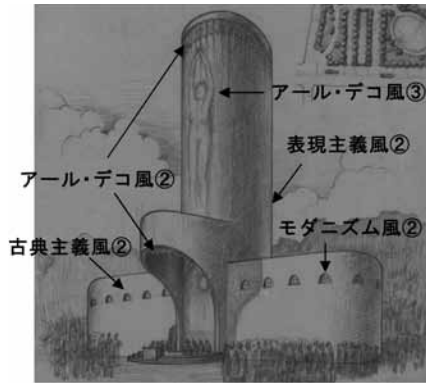


- ・直線を強調した台形状の塔の立面構成（表現主義風①）
- ・前面に設けた植物を抽象化した装飾（アール・デコ風②）と人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
- ・左右対称（古典主義風②）で、全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○				○	○	○								

No. 47 石川旭作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

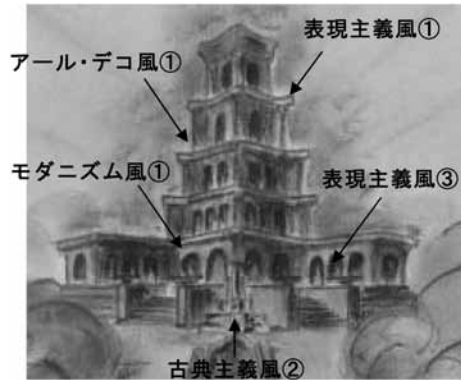


- ・曲線を多く用いた円筒状の塔の立面構成（表現主義風②）
- ・祭壇の内部に設けた波形や太陽のような装飾と、塔の上部に植物を抽象化した装飾など、幾何学的装飾の多用（アール・デコ風②）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
- ・塔の上部に用いた人体を描いた装飾（アール・デコ風③）
- ・左右対称で設けたガラス張り（モダニズム風②）のアーチ開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○		○			○	○	○								

No. 48

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

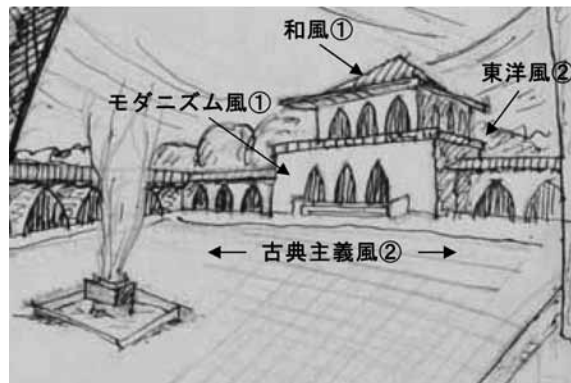


- ・多角プレート状の層（表現主義風①）がジググラト状に積層した塔の立面構成（アール・デコ風①）で、表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称に（古典主義風②）設けた背の高いアーチ開口部（表現主義風③）
- ・全体的に装飾性を抑えた（モダニズム風①）、ブルーノ・タウトの「天の家」と類似したデザイン

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○		○	○			○								

No. 49

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

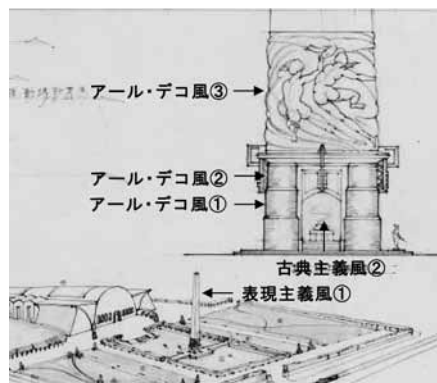


- ・左右対称で連続した尖頭アーチ開口部の回廊（古典主義風②）を中心として設けた、方形屋根（和風①）を用いた本堂の立面構成で、中国寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・中庭に香炉を設け、宗教建築の雰囲気がうかがえる
- ・全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○							○		○					○	

No. 50 田丸潤身作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

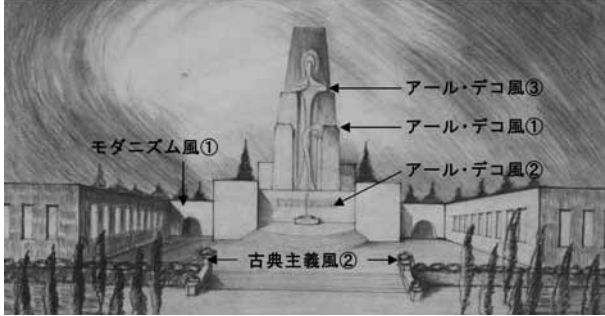


- ・オベリスクと類似した、垂直性を強調した塔の立面構成（表現主義風①）
- ・ジグザグした幾何学的装飾（アール・デコ風②）と人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
- ・低層部の柱は左右対称（古典主義風②）の階段式構造（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○	○	○									

No. 51

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる



- ・左右に縦長開口部を用いた陳列場（古典主義風②）の中央に設けた、装飾を抑えた（モダニズム風①）ジグザト状の塔（アール・デコ風①）
- ・前面の人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）と植物を抽象化した装飾（アール・デコ風②）から、全体的にアール・デコ風の

影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○	○	○								

No. 52

・モダニズム風に基調したデザインであると考えられる

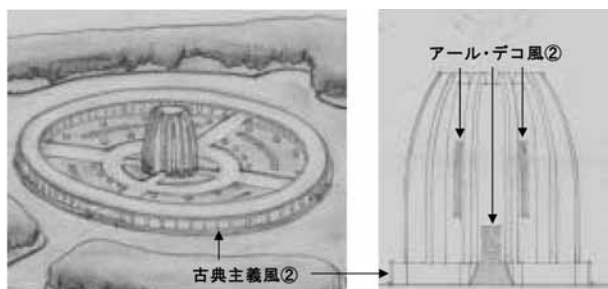


- ・連続した尖頭アーチ開口部を持つ回廊（古典主義風②）の中央に設けた灯台状の塔の立面構成で、全体的に装飾を抑えたことから（モダニズム風①）モダニズム風の影響が考えられる
- ・塔の屋根に反りの強いプレートのジグザト状デザイン（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○			○								

No. 53 郡真一作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

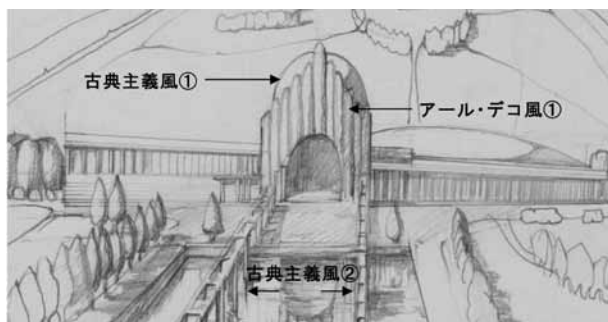


- ・左右対称で列柱が並ぶ円形回廊を（古典主義風②）中心に設けた塔の立面構成で、古典主義風の影響が考えられる
- ・開口部に直線の幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○					○										

No. 54 奥本一郎作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

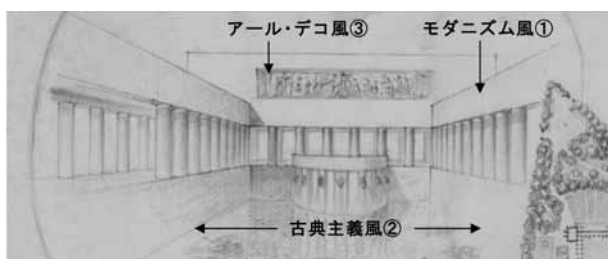


- ・前面に池を配置し、列柱で設けた回廊（古典主義風②）の中心にドーム屋根（古典主義風①）を用いた本堂の立面構成で、古典主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で用いた（古典主義風②）ジグザグ状デザインの丸形装飾（アール・デコ風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○				○											

No. 55 福田定右衛門作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

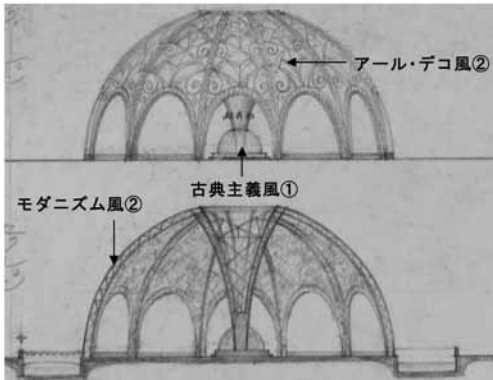


- ・装飾性を抑えた（モダニズム風①）、コの字型の立面構成
- ・列柱を用いた左右対称のデザイン（古典主義風②）から全体的に古典主義風の影響が考えられる
- ・建物前面に人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○						○	○								

No. 56 大原芳知作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

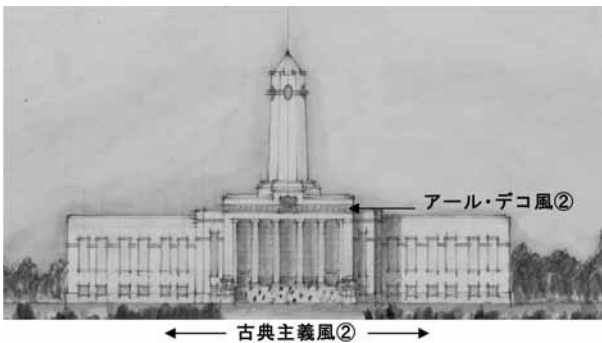


- ・扇形の柱（古典主義風①）を中心に設けた半球体のパビリオンで、建物前面に用いた、植物を抽象化した装飾（アール・デコ風②）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
- ・鉄などの新材料の使用（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○						○			○							

No. 57 元良勲作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

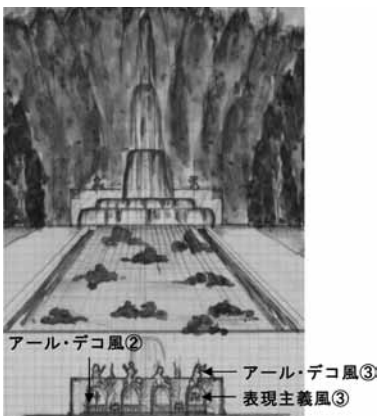


- ・ゴシック様式の影響がうかがえる屋根など、古典主義風の立面構成
- ・左右対称で設けた列柱と縦長開口部（古典主義風②）
- ・半円形の幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○					○										

No. 58 田間齋次郎作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

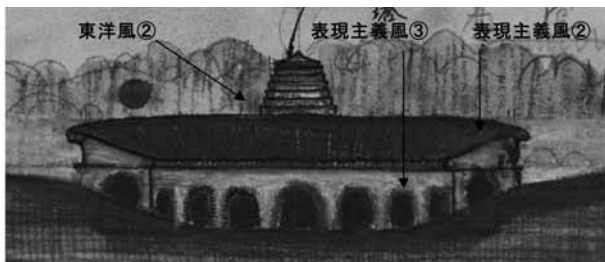


- ・噴水池の後面に礼拝所を配置した構成
- ・礼拝所は十字架や仏教の独特なシグネチャーが設けられた箱型の造形物（表現主義風③）から、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・アーチ開口部の上部に人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）
- ・手すりに曲線を多く用いた幾何学的装飾（アール・デコ風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
				○		○	○									

No. 59 庄司螢造作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる



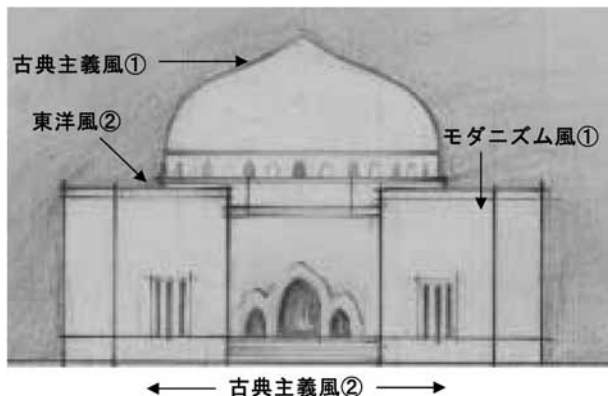
- ・納骨堂と中国風の13重石塔を設けた立面構成（東洋風②）で、東洋風の影響が考えられる
- ・なだらかなカーブを用いた屋根（表現主義風②）
- ・大きさが異なる、連続した変形アーチ開口部（表現主義風③）

部（表現主義風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
			○	○											○	

No. 60 長谷部鋭吉作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

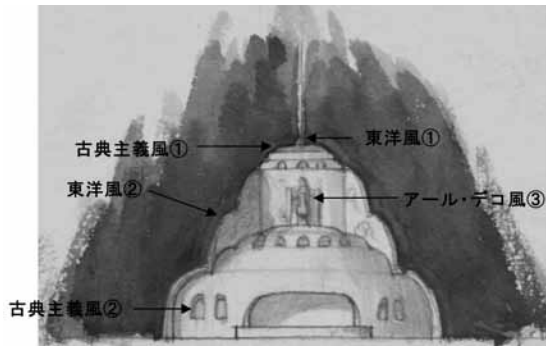


- ・装飾を抑えた箱型の低層部（モダニズム風①）にオジーアーチ形のドーム屋根（古典主義風①）の本堂の立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・左右対称で設けた尖頭アーチ開口部と縦長開口部（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○							○							○	

No. 61

・東洋風に基調したデザインであると考えられる

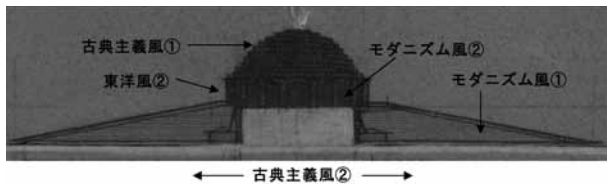


- ・ 曲線を多く用いた躯体にドーム屋根（古典主義風①）を被せた本堂の立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・ ドーム屋根の上部にストゥーパと類似した装飾（東洋風①）
- ・ 左右対称で設けたアーチ開口部（古典主義風②）
- ・ 中央部の人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○						○							○	○	

No. 62 青木虎之助 中平市之介作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる



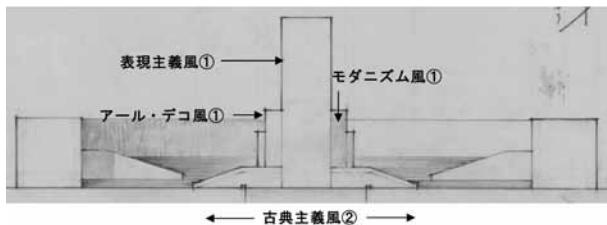
- ・ 列柱を用いた躯体にローマ式ドーム屋根（古典主義風①）を設けた立面構成で、イスラム寺院建築の影響がうかがえる（東洋風②）

- ・ 装飾性を抑えた（モダニズム風①）、左右対称のデザイン（古典主義風②）
- ・ ガラス張りの開口部（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○							○	○						○	

No. 63

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



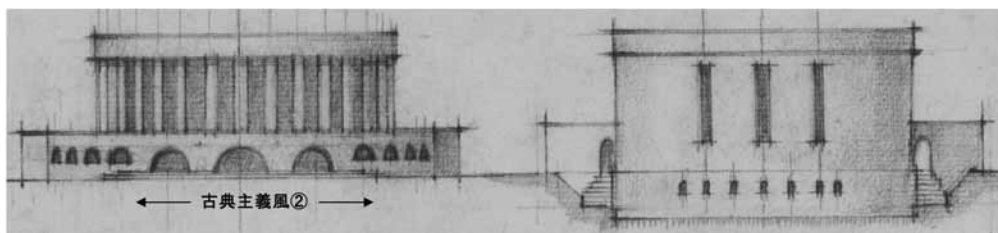
- ・ 直方体をジグザグ状に積層した（アール・デコ風①）、垂直性を強調した塔で（表現主義風①）、全体的に表現主義風の影響が考えられる

- ・ 装飾性を抑えた（モダニズム風①）左右対称の立面構成（古典主義風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○			○								

No. 64 岡本英雄作

・古典主義風に基調したデザインであると考えられる

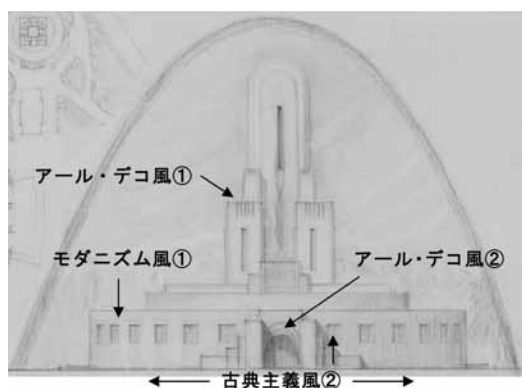


・箱型の躯体に、左右対称で列柱と連続したアーチ・縦長開口部が（古典主義風②）設けられている
立面構成から、古典主義風の影響が考えられる

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○															

No. 65 中原常義作

・アール・デコ風に基調したデザインであると考えられる

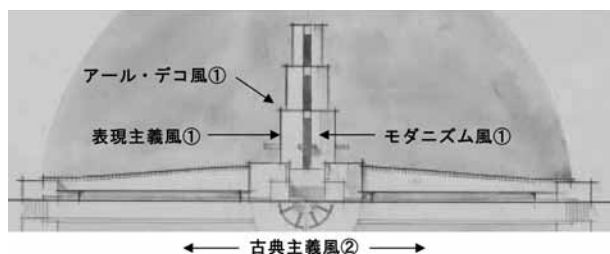


・プレート状の層がジググラト状に積層し、上部に塔を設けた立面構成（アール・デコ風①）から、全体的にアール・デコ風の影響が考えられる
・左右対称の立面に（古典主義風②）用いた、3種類の縦長開口部（古典主義風②）
・入り口と塔上部に重ねアーチ開口部の反復（アール・デコ風②）のほか、装飾を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○		○								

No. 66 山野井菊弍作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

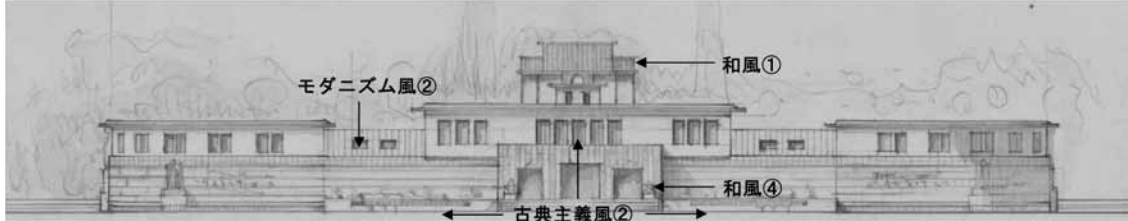


・円筒状をジググラト状で積層した塔（アール・デコ風①）で、東京市臨時建築局の設計競技参考案との類似性と表現主義風の影響が考えられる
・全体的に垂直性を強調した（表現主義風①）、装飾性を抑えた（モダニズム風①）
左右対称の（古典主義風②）デザイン

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○			○			○								

No. 67

・和風に基調したデザインであると考えられる

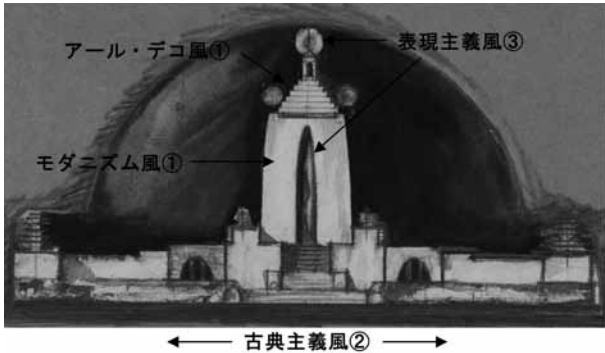


- ・円形回廊に囲まれた、切妻屋根（和風①）や獅子像（和風④）など和風の要素の強い本堂の立面構成で、東京市公園課・井下清の震災記念堂計画案と類似性と和風の影響が考えられる
- ・左右対称で用いたガラス張りの縦長開口部（古典主義風②）と横長開口部（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○								○	○			○			

No. 68

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



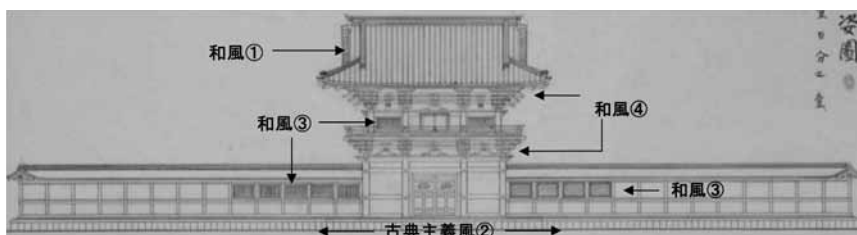
- ・プレート状の層をジグザグ状に積層した屋根を用いた、円筒状の塔の立面構成（アール・デコ風①）
- ・入口に設けた背の高いアーチ開口部と建物の上部に設けた3つの丸体造形物で（表現主義風③）、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・全体的に装飾性を抑えた（モダニズム風

①）、左右対称（古典主義風②）のデザイン

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○			○	○			○								

No. 69 白形要作

・和風に基調したデザインであると考えられる

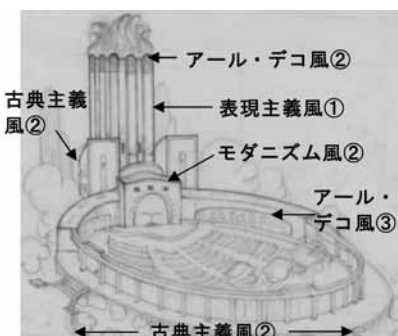


- ・左右対称の（古典主義風②）、八角形の納骨堂を用いた入母屋屋根の本堂の立面構成（和風①）
- ・連子窓や丸窓、格子窓など、開口部に和風寺院建築の要素（和風③）から、和風の影響が考えられる
- ・斗拱と幕股と見られる要素（和風④）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○									○		○	○			

No. 70 青木北星作

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる

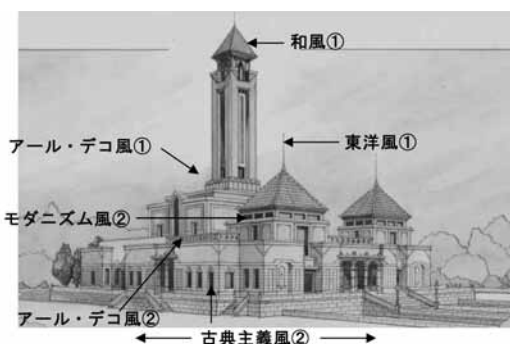


- ・円形回廊（古典主義風②）を中心として松明を照らした垂直性の強い塔（表現主義風①）の立面構成で、全体的に表現主義風の影響が考えられる
- ・左右対称で用いた縦長開口部（古典主義風②）と横長開口部（モダニズム風②）
- ・水玉模様や格子縞など、幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）
- ・円形回廊に人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○				○	○		○							

No. 71 丸山信作

・ライト式に基調したデザインであると考えられる



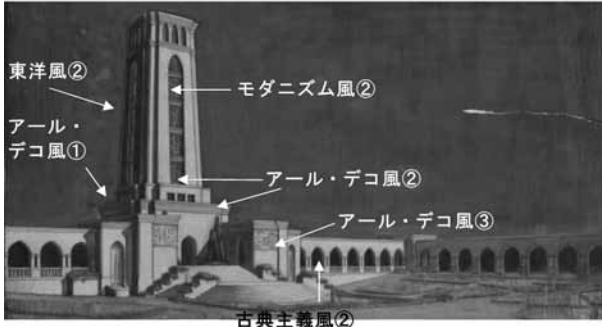
- ・礼拝堂を設けた、方形屋根（和風①）の塔の立面構成で、全体的にライト式の影響が考えられる
- ・全体的にジグザグ風デザイン（アール・デコ風①）
- ・屋根の上部にストーパーパをアレンジした装飾（東洋風①）
- ・波型など、幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

- ・左右対称の縦長開口部（古典主義風②）と横長開口部（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○			○	○				○		

No.72 木村平五郎作

・東洋風に基調したデザインであると考えられる



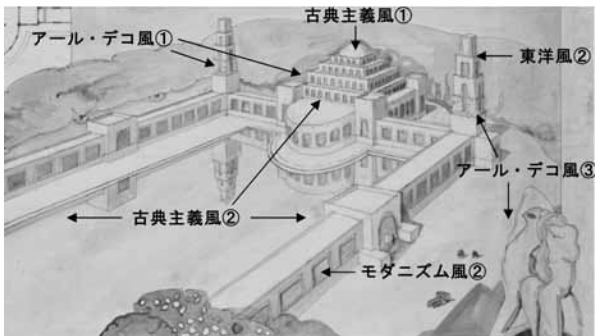
- ・連続したチューダーアーチ開口部（古典主義風②）を用いた回廊を中心に塔を設けた立面構成で、イスラム寺院建築の影響が考えられる（東洋風②）
- ・塔に見るジグザト風デザイン（アール・デコ風①）
- ・植物を抽象化した装飾や、仏陀や斜線の彫刻など、幾何学的装飾の反復（アール・デコ風②）

- ・入り口の壁に人体を描いた装飾（アール・デコ風③）
- ・連続したガラス張りの開口部（モダニズム②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○				○	○	○		○						○	

No.73

・東洋風に基調したデザインであると考えられる



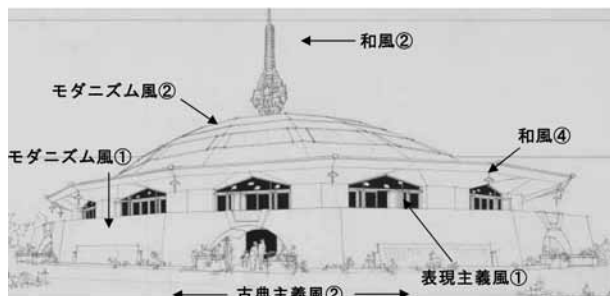
- ・プレート状の層がジグザト状に積層したドーム屋根（古典主義風①）の本堂と左右の塔の立面構成（アール・デコ風①）で、イスラム寺院建築の影響がうかがえる（東洋風②）
- ・塔に人体を描いた彫刻（アール・デコ風③）

- ・左右対称の縦長開口部（古典主義風②）と横長開口部（モダニズム風②）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
○	○				○		○		○						○	

No. 74

・表現主義風に基調したデザインであると考えられる



- ・八角形の躯体にドーム屋根を被せた立面構成で、相撲常設館との類似性と、これまでとは異なる斬新な表現主義風の影響が考えられる
- ・屋根の上部に相輪をアレンジした装飾（和風②）
- ・日差しに付けた小鐘の装飾（和風④）

- ・連続した五角形（表現主義風①）・アーチ開口部（古典主義風②）
- ・新材料を用いながら、（モダニズム風②）全体的に装飾性を抑えたデザイン（モダニズム風①）

古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
	○	○						○	○		○		○			

IV - III 震災記念堂設計競技応募図案の外観デザインの傾向

本節では、震災記念堂の設計競技応募図案 74 案のうち、立面図や透視図などの外観デザインがわかる図案に見るデザイン要素を建築様式ごとに分類し、分析を行った。その結果は以下の通りである。

先ず、応募図案で見ると、外観デザインの要素は、古典主義風とアール・デコ風（同数）—表現主義風—モダニズム風—和風—東洋風の順に多かったことが明らかとなった〈表2〉。そのうち、当選図案ではアール・デコ風の要素が、選外図案では古典主義風の要素が最も多く見えたものの、大きな相違点は見当たらなかった。こうした各建築様式の要素を分析した結果は、以下の1~6のようにまとめられる。

1 古典主義風の要素を見ると、まず、「①ドーム屋根やオーダー」の要素は18/74例であり、ドーム屋根は16例、オーダーは2例としてドーム屋根の要素が多く取り入れられていた。また、「②連続したアーチ窓と縦長窓、列柱を用いた左右対称の空間構成」の要素は63/74例で、そのうち、列柱の要素は15例、縦長開口部の要素は30例、左右対称の構成は55例であり、左右対称の要素を用いた事例が最も多かった。このことから、古典主義風の要素では屋根形状やオーダーより左右対称の要素が多く見られたことが明らかとなった。

2 表現主義風の要素を見ると、まず「①垂直性を強調した高層計画と鋭角」の要素は25/74例で、そのうち、直線を用いて垂直性を強調した計画は19例、角に用いた鋭角の要素は8例と、垂直性を強調した立面計画の要素が多く見られた。また、半円形などの、一定形に当てはまらない「②自由な曲線を用いた立面構成」の要素は10/74例で取り入れられている。なお、「③外観に用いた変形のアーチ開口部と独特な装飾」の要素は24/74例で、そのうち、変形アーチ開口部の要素は21例、十字架をアレンジするなどの独特な装飾は3例で、背の高い変形アーチ開口部の要素が多く見られた。このことから、表現主義風の要素では、東京市建築局の設計競技参考図案（図2）でも特定できた、直線を用いて垂直性を強調した立面計画と、細部に用いた変形アーチ開口部の要素が多く見られたことが明らかとなった。

〈表2〉 震災記念堂の設計競技応募図案（74案）から見るデザイン要素

図案 No.	古典主義風		表現主義風			アール・デコ風			モダニズム風		和 風				東 洋 風		
	①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③
1		○				○	○										
2		○	○			○	○	○									
3	○	○				○	○				○	○	○	○			
4	○	○			○		○										
5		○	○			○	○										
6		○									○	○	○	○			
7	○						○		○			○					
8		○				○	○									○	○
9	○	○							○	○							
10		○			○	○			○								○
11		○	○		○	○			○								
12	○	○						○							○	○	
13		○	○		○	○			○								
14		○		○	○				○								
15				○	○												
16		○							○		○	○					
17		○	○			○	○								○	○	
18		○	○			○	○	○									
19		○	○		○				○								
20		○	○			○	○										
21					○	○			○	○							
22	○	○			○										○	○	
23	○	○			○				○								
24		○	○			○		○									
25		○			○		○		○	○							
26		○				○							○				
27		○	○		○	○	○	○		○							
28		○	○		○	○			○								
29				○		○	○	○				○					
30		○	○	○					○								
31		○	○	○	○				○						○	○	
32		○	○				○		○								
33		○	○			○				○			○				
34		○			○	○				○			○			○	
35			○						○	○							
36	○	○				○			○							○	
37	○	○							○							○	
38			○		○	○		○	○								
39	○	○															
40				○	○	○			○								
41		○		○	○				○								
42	○	○			○						○						
43	○	○				○	○	○							○		
44		○	○			○			○								
45				○	○				○								
46		○	○				○	○	○								
47		○		○			○	○		○							
48		○	○		○	○			○								
49		○							○		○					○	
50		○	○			○	○	○									
51		○				○	○	○	○								
52		○				○			○								
53		○					○										
54	○	○				○											

55		○						○	○								
56	○						○		○								
57		○					○										
58					○		○	○									
59				○	○											○	
60	○	○							○							○	
61	○	○						○							○	○	
62	○	○							○	○						○	
63		○	○			○			○								
64		○															
65		○				○	○		○								
66		○	○			○			○								
67		○								○	○			○			
68		○			○	○			○								
69		○								○		○	○				
70		○	○				○	○		○							
71		○				○	○		○	○					○		
72		○				○	○	○		○						○	
73	○	○				○		○		○						○	
74		○	○						○	○		○		○			
当選図案	8	31	16	5	15	20	14	6	17	7	3	5	2	5	4	7	2
選外図案	10	32	9	5	9	16	13	12	19	9	5	1	1	3	3	8	0
全図案	18	63	25	10	24	36	27	18	36	16	8	6	3	8	7	15	2
全図案合計	81		59			81			52		25				24		

※ 当選図案は「案No」項目に色付けして表記する。

3 アール・デコ風の要素を見ると、まず「①同一形状の層が異なる大きさで並ぶ、ジググラト風デザイン」の要素は36/74例で取り入れられており、「②ジグザグや放射線、植物を形象化した流線型など、単純幾何学的デザイン要素の反復」の要素は27/74例が見えた。また、外観の前面に用いた「③人体を形象化した装飾」の要素が18/74例で、そのうち3例では人のお祈りの姿を描いたものであった。このことから、アール・デコ風の要素では、古代の神殿建築で見られるジググラトを取り入れたものが最も多く、また、細部には形にある基準を持つ幾何学的デザインが反復する装飾が多く見られたことが明らかとなった。

4 モダニズム風の要素を見ると、まず「①装飾を抑えたシンプルデザイン」の要素が36/74例で、前述のように、応募図案には表現主義風の「③変形アーチ開口部と独特な装飾」の要素とアール・デコ風の「②単純幾何学的デザイン要素の反復」など、細部には装飾の要素が見られるが、全体的な外観デザインでは不要な装飾を極力に抑えようとした様子がうかがえ、東京市建築局の設計競技参考図案（図2）でも同様な要素が特定できた。また、「②ガラスや鉄など、新材料の使用と、連続した横長窓」の要素が16/74例を占めており、開口部に青色で表現したガラスの使用は9例、鉄などの材料の使用は2例、横長窓を用いたのは5例で、ガラスを用いた例が多く見られたことが明らかとなった。

5 和風の要素を見ると、「①方形、切妻、入母屋などの屋根形状」の要素が8/74例で、そのうち最も多かった方形屋根は4例、切妻屋根は2例、入母屋屋根と寄棟屋根、六角屋根が1例であった。また、屋根上に「②相輪をアレンジした装飾」の要素が6/74例を、「③連子窓と火灯窓など、開口部の形状」の要素は、連子窓が2例、火灯窓と花狭間、丸窓が1例の、3/74例で用いられている。なお、「④獅子像や風鐸等の装飾」の要素が8/74例で、そのうち獅子像が4例、風鐸が3例、斗栱が2

例、香炉塔と燈籠、仏像、墓股が1例であった。このことから、和風の要素では建築のイメージを決める屋根形状と、獅子像や風鐸などの装飾が多く見られたことが明らかとなった。なお、東京市公園課の設計競技参考図案（図1）では、八角屋根の屋根形状と相輪、連子窓などの開口部の形状と風鐸などの装飾を用いたことから、応募図案で見ると和風の要素との類似性が読み取れた。

6 東洋風の要素を見ると、「①ストーパーをアレンジした屋根形状」の要素が7/74例を、「②中国やイスラムなどのアジア寺院建築と類似した立面構成」は、中国寺院建築が2例、イスラム寺院建築が11例、シカラ様式が2例で15/74例を占めていたことがわかった。なお、「③アラベスクなど曲線の多い装飾」の要素は2/74例がうかがえた。このことから、東洋風の要素ではアジア寺院建築と類似した立面構成が最も多く、特にイスラム寺院建築の影響が大きかったことが明らかとなった。

ここで、74案のうち各建築様式で多く見られたデザイン要素をまとめてみると、古典主義風の「②連続したアーチ窓と縦長窓、列柱を用いた左右対称の空間構成」が63/74例、表現主義風の「①垂直性を強調した高層計画と鋭角」の要素が25/74例と「③外観に用いた変形のアーチ開口部と独特な装飾」が24/74例、アール・デコ風の「①同一形状の層が異なる大きさで並ぶ、ジググラト風デザイン」が36/74例と「②ジグザグや放射線、植物を形象化した流線型など、単純幾何学的デザイン要素の反復」の要素は27/74例、モダニズム風の「①装飾を抑えたシンプルデザイン」が36/74例、和風の「①方形、切妻、入母屋などの屋根形状」が8/74例と「④獅子像や風鐸等の装飾」の要素が8/74例、東洋風の「②中国やイスラムなどのアジア寺院建築と類似した立面構成」が15/74例であったことが明らかとなった。応募図案の中で最も多く見られた左右対称の要素は、墓墳や寺院、神殿などの宗教建築や格式と権威を必要とする建築で多く採用された要素のひとつであり、応募図案でもそれと同様に建築の厳粛さを表現するひとつの設計手法として用いられたことが推察できる。また、全体的な外観形状としては、不要な装飾的要素を抑え、同一形状の層が異なる大きさで並ぶジググラト風デザインや直線を多く用いて垂直性を強調した計画から、シンプルでかつ明瞭にした外観デザインを採用したこと、また、ドーム屋根に左右対称の縦長開口部を多く用いた古典主義風の塔の形状で、当時の設計競技で流行した「コンペティションスタイル⁽⁵³⁾」と類似していたことが読み取れた。さらに、その細部には単純幾何学的装飾や変形アーチの開口部などの装飾を設けて設計者の個性を発揮していたことも考えられる。こうした西洋風の要素が大多数の割合を占める一方、和風及びイスラム寺院建築に影響を受けた様子もうかがえた。特に、方形屋根などの屋根形状や獅子像・風鐸などに用いた和風の要素では、屋根形状のみならず、細部装飾や開口部形状などに日本の伝統的表現を採用することで日本の建築様式を再構築しようとしている様子も読み取れた。

おわりに

大正期は、短い間にもかかわらず社会全般に大きな変化をもたらしており、こうした変化に影響を受けた建築界でも新しい建築への試みとして様々な建築様式が導入された。本稿は、こうした大正期における建築デザインの傾向を幅広く検討するため、大正期に実施された設計競技のうち、1924（大正13）年12月22日より1925（大正14）年2月28日までに行われた震災記念堂の設計競技に注目し、多くの人々が提案した設計競技の応募図案を用いて外観デザインの分析を行った。これまで一般

に公開されていなかった選外図案の一部を含めた、74 案の震災記念堂の設計競技応募図案のデザインを分析すると共に設計競技の応募状況を検討した結果は、以下の通りにまとめられる。

まず、震災記念堂の設計競技は、その応募規定に慰霊祭祀の建築として相応すべきと記されたものの、具体的な建築様式が明記されていなかったため、建築様式の自由が与えられた。全国で 221 案の応募があった震災記念堂の設計競技の応募図案のうち、この度収集できた 74 案のうち約 5 割である 39 案の図案応募者は建築業に携わった専門家であり、その中には東京帝国大学建築学科教授など、当時の建築界の中心となった人物も参加していたことが明らかとなった。このことから、震災記念堂の設計競技の応募図案は、大正期の建築デザインの傾向を客観的に読み取るひとつの基準となることが考えられる。

次に、立面図や透視図などで外観の形状がわかる 74 案の応募図案を古典主義風、表現主義風、アール・デコ風、モダニズム風、和風、東洋風の 6 つのデザイン様式に分類し、各様式で最も多く見られたデザインの要素をまとめた結果、古典主義風では「②連続したアーチ窓と縦長窓、列柱を用いた左右対称の空間構成」が 63/74 例、表現主義風では「①垂直性を強調した高層計画と鋭角」の要素が 25/74 例と「③外観に用いた変形のアーチ開口部と独特な装飾」が 24/74 例、アール・デコ風では「①同一形状の層が異なる大きさで並ぶ、ジグザグデザイン」が 36/74 例と「②ジグザグや放射線、植物を形象化した流線型など、単純幾何学的デザイン要素の反復」の要素は 27/74 例、モダニズム風では「①装飾を抑えたシンプルデザイン」が 36/74 例、和風では「①方形、切妻、入母屋などの屋根形状」が 8/74 例と「④獅子像や風鐸等の装飾」の要素が 8/74 例、東洋風では「②中国やイスラムなどのアジア寺院建築と類似した立面構成」が 15/74 例であったことが明らかとなった。当選図案と選外図案の間には類似した傾向が見られており、その中でも最も多くの図案で見られたのは古典主義風の左右対称の要素である。このことから、左右対称の要素は宗教的性格を持つ建築としての厳粛さを表現する設計手法のひとつであったことが推察でき、このほか、アール・デコ風のジグザグデザインと人のお祈り姿を描いた装飾の要素でも同様な意図が考えられる。また、全体的な外観形状としては、不要な装飾的要素を抑え、同一形状の層が異なる大きさで並ぶジグザグデザインや直線を多く用いて垂直性を強調した計画が多く採用されたこと、また、ドーム屋根に左右対称の縦長開口部を多く用いた古典主義風の塔の形状とした「コンペティションスタイル」との類似性も見られ、すっきりしたモダンなデザインと均衡が取れた古典主義風デザインが共存していた様子がうかがえた。さらに、その細部には、単純幾何学的装飾の反復と変形アーチ開口部などの装飾の要素を設け、設計者の個性を発揮したことが考えられる。一方、和風及びイスラム寺院建築の影響もうかがえ、特に和風の屋根形状や獅子像・風鐸の装飾など、部分的に日本的要素を取り入れたことは西洋風の躯体に日本の伝統的表現を用いた「日本趣味」の建築につながる傾向であると考えられる。

以上、本稿は震災記念堂の設計競技応募図案を用いて、具体的にどのようなデザイン要素を用いてそれらを実現しようとしていたのかを検証したものである。

注

- (1) イギリスの産業革命に伴って起こったアーツ・アンド・クラフツ運動（1880年代）以来、新たな建築様式が次々登場した。具体的には、アール・ヌーヴォーをはじめ、ヴィーン・セセッション、表現主義、ロシア構成主義、デ・スティール、アール・デコ、モダニズムなどがある。
- (2) 19世紀末から20世紀初頭にかけて、ヨーロッパの各地に流行した芸術様式。この名称は、1896年に美術商ビングガパリに「アール・ヌーヴォー」という名の店を開いたのに由来するとされているが、過去の様式を拒否して新しい装飾形式をつくらうとする動きは、それより先にグラフィックアートから建築に至る芸術の各領域に既に現われていた。イギリスのマックマードによる『レンの都市教会』のタイトルページ（1883）、V. オルタによるブリュッセルのタッセル邸（1892～93）の階段室など、いずれも曲線形を多用して情感豊かな形式をつくりだしたもので、この様式の典型とされている（彰国社編『建築大辞典第2版』彰国社、p.7、1993）。
- (3) 19世紀末から20世紀初頭にかけて、ドイツ、オーストリアに興った芸術の革新運動で、その主な活動領域は建築と工芸。建築では、特にウィーンとダルムシュタットの運動が目される（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.899）。
- (4) 第一次大戦前後の不安定な社会状況を背景にドイツに起こった芸術運動。自由曲面や鋭角を多用し、個人の感情の表出をめざした（日本建築学会編『建築学用語辞典』岩波書店、p.617、1993）。
- (5) 日本の近代建築運動の先駆をなすグループ。1920年東京帝国大学建築学科の石本喜久治、滝沢真弓、堀口捨己、森田慶一、矢田茂、山田守の6人の学生が、卒業直前の2月大学構内で同人習作展を開いたのに始まる。明治の様式建築とその垂流から分類するとともに、野田俊彦の建築非芸術論に代表される建築実利主義の克服を目指した（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.1494）。
- (6) ライト式は、「アメリカ建築家ライト（Wright, F.L.）の形式をとり入れた意匠の建物」を称する。大正期から昭和初期におけるわが国の建築スタイルに多大な影響を与えた（前掲注（4）『建築学用語辞典』p.747）。また、この用語は1919（大正8）年、ライトが設計した帝国ホテルの建設に伴って登場した。
- (7) 「古代ギリシャ・古代ローマ時代の建築を規範とする建築」を示す。（前掲注（4）『建築学用語辞典』p.242）。
- (8) 新古典主義に続くヨーロッパ19世紀の建築思潮。『折衷主義』ともいう（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.1760）。過去の建築様式のリヴァイヴァルを本旨としている歴史主義は、イギリス建築史家・ニコラス・ペプスナーによって「独創的な試みを封じ込め、その替りに前の時代に想を得た試みを行う程までに歴史の力に信を置くものである」と定義付けられている。ところで、川向正人はこの歴史主義に3段階のプロセスがあり、立体幾何学的形態の建築に主観的な表現として多様な歴史様式の装飾を取り入れた第1段階（1830～60年ごろ）、客観性を求めたネオ・ルネサンス、あるいはネオ・ゴシックなどの様式を選択することで国家的な大規模建築に相応しい様式を追求した第2段階（1850～80年ごろ）、再び立体幾何学的な軀体に回帰して多彩色と複数の材料を組み合わせた第3段階（1880～1914年ごろ）の傾向が読み取れると述べている（川向正人「19世紀建築と歴史主義」『日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』第1997号、pp.335～336、1997.9）。
- (9) 1920～30年代に盛行した建築、工芸の傾向をさす名称。パリの現代装飾・産業美術国際博覧会（1925年）の名に因む。伝統とモダニズムを融合した性格をもつとみなされる（前掲注（4）『建築学用語辞典』岩波書店、p.19）。
- (10) 藤岡洋保は、設計競技と言説を中心として戦前期の建築界における「日本的なもの」の概念を分析し、明治・大正期は社寺建築に由来するモチーフが多用されたことを明らかにした（藤岡洋保「昭和初期の日本の建築界における『日本的なもの』——合理主義の建築家による新しい伝統理解——」『日本建築学会計画系論文報告集』第412号、pp.173～180、1990.6、ほか）。こうした動きは、「日本趣味」の建築という名を用いて戦前期における建築に大きな影響を与えた。「日本趣味」の建築は戦前期に実施された設計競技や実際の建築作品などで表れた、新しい建築様式を求めるひとつの試みであり、大川三雄は「新技術（RC

- 造)を用いた新しい建築に日本の伝統的建築の具象的モチーフを採用して日本の表現を試みた建築」と定義している(大川三雄「続・生き続ける建築—5 渡辺仁」『INAX REPORT』第183号、p.6、2010.7)。
- (11) 本稿は大正期における近代建築史の動向についての数多くの研究のうち、国内外の動向を詳細に扱っている大川らと鈴木ら、西田らの成果を大いに参考にしている(大川三雄・初田亨・川向正人・吉田綱市『図説 近代建築の系譜：日本と西欧の空間表現を読む』彰国社、1997/鈴木博之・山口広『新建築学大系5 近代・現代建築史』彰国社、1993/西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎『図説 建築の歴史——西洋・日本・近代』学芸出版社、2003)。
- (12) これまで、日本における設計競技の動向はその当選図案を中心として数多くの研究成果が出されており、代表的には近江栄の研究が挙げられる。近江は、設計競技の当選図案を中心としてその応募規定と当選図案に対する審査員の審査評を分析し、1889(明治22)年に実施された「宮城正門内鉄橋(二重橋)際の櫓台上的銅器」の設計競技から1986(昭和61)年の「第二国立劇場」までの設計競技の動向を検討した(近江栄『建築設計競技——コンペティションの系譜と展望』鹿島出版会、1986)。また、櫻村芙実・光井渉は、1937(昭和12)年に実施された建国記念館の設計競技当選図案を対象としてその規定に記された「勾配屋根」のほか、1930年代に実施された設計競技における「日本趣味」の建築の特徴について考察した(櫻村芙実・光井渉「設計競技応募案からみた1930年代における日本趣味建築の意匠的展開——『日本万国博覧会建国記念館設計競技』を中心として——」『日本建築学会計画系論文集』第715号、pp.2101~2109、2015.9)。これらの研究では設計競技審査員の審査評に基づいて当選図案の意匠的特徴を分析したものの、それぞれの図案に用いられたデザイン要素は検討されていない。これに対し、本稿では、当選図案と共にこれまで公開されてこなかった設計競技の選外図案の一部を用いてその外観デザインを分析することで、大正期に実施された設計競技の実態を読み取ることができると考える。
- (13) 東京震災記念事業協会編『大正大震災記念建造物競技設計図録』洪洋社、1925
- (14) 2013(平成25)年、震災記念堂の収蔵庫で発見された本資料は、これまで一般に公開されてこなかった貴重な資料である。高野は、震災記念堂の収蔵庫に保管されている震災・戦災関連資料をリストアップしたものの、設計競技選外図案の情報は記されていない(高野宏康「東京都慰霊堂保管・関東大震災関係資料について」『年報非文字資料研究5号』神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター、pp.65~94、2009.3)。
- (15) 本田昌昭・末包伸吾編『テキスト建築の20世紀』学芸出版社、2009
- (16) 前掲注(11)『新建築学大系5 近代・現代建築史』
- (17) 藤森照信『日本の近代建築(下)』岩波書店、1993
- (18) 朝日新聞社「被服廠跡に震災記念館を經費百萬圓の豫算で 設計圖案は一般から募る」『朝日新聞』夕刊、p.1、1924.5.25
- (19) 前掲注(13)「大正大震災記念建造物設計図案募集規定」『大正大震災記念建造物競技設計図録』
- (20) 井下清(1884~1973)は東京高等農学校を卒業後、1923(大正12)年に東京市公園課長、1938(昭和13)年に東京市理事、1942(昭和17)年に東京市公園部長、1943(昭和18)年に東京都公園緑地課長、1947(昭和22)年に依願免官として従事した。東京都の公園行政に貢献し、全国の造園関連事業の発展に尽くした、緑化行政及び霊園行政の第一人者である。
- (21) 東京震災記念事業協会清算事務所編『被服廠跡：東京震災記念事業協会事業報告』東京震災記念事業協会清算事務所、p.92、1932
- (22) アーリントン墓地の円形劇場をさしていると考えられる。
- (23) 佐野博士追想録編集委員会『佐野利器』佐野博士追想録編集委員会、p.48、1957
- (24) 前掲注(21)『被服廠跡：東京震災記念事業協会事業報告』p.93
- (25) 仏塔の最上階屋根の上にそびえ立つ青銅または鉄製の構造体。古くは露盤ともいう。頂部より宝珠、竜舎、水煙、九輪、請花、覆鉢、露盤から成る。請花より宝珠にまで達する柱は刹と呼ばれる。一般の木造塔では塔高の1/3ほどの高さが最も多い(前掲注(2)『建築大辞典第2版』p.943)。

- (26) 細かい材（連子）を縦または横に並べた窓。一枚の板から連子形をつくり出すものもある（前掲注（4）『建築学用語辞典』p.770）。
- (27) 仏堂の軒の四隅、仏塔の九輪などに吊り下げる青銅製の鈴。その形状は鐘に似て、内部に舌^{ゼツ}があり、風に揺れて音を発する。「宝鐸」ともいう（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.1430）。
- (28) 東京市公園課は1924（大正13）年7月17日の東京市の参事会議で井下案を設計競技に関する基準案として提案した。本稿では、その井下案を中心として計画された震災記念公園の配置計画案を設計競技の基準案として称する（東京毎日新聞社「被服廠跡の震災記念公園——財団法人を作つて寄付を募る」『東京日日新聞』朝刊、p.10、1924.8.17）。
- (29) この参考案は新聞記事のみ確認でき、建築局の参考案を直接計画した担当者の情報や、東京市建築局で記念塔を設計競技の参考案として出した理由は明らかになっていない（朝日新聞社「池の中に記念塔 被服廠跡へ建てる」『朝日新聞』朝刊、p.7、1924.9.13）。
- (30) 2015（平成27）年、震災記念堂の収蔵庫で発見された本資料は、これまで一般に公開されず、また、高野が作成したリスト（前掲注14）にも記されていない（東京震災記念事業協会『記念堂設計図案収受簿』東京震災記念事業協会収蔵、1925）。
- (31) 震災記念堂の設計競技が行われた大正13年より10年間の名簿を対象として、建築学会会員と収蔵簿に記入された図案応募者の情報を照らし合わせる作業を行った（建築学会『建築学会会員住所姓名録』建築学会、1924/建築学会『建築学会会員住所姓名録』建築学会、1929/建築学会『建築学会会員名簿』建築学会、1934）。
- (32) ギリシア・ローマ建築における円柱とエンタブレンチュアの比例関係をもととした構成原理。ギリシアにはドリス式、イオニア式、コリント式の3種類あり、ローマ人はギリシアのオーダーを受け継ぎ、変形しながら、トスカーナ式、コンポジット式（複合式）の2種類を加えた（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.188）。
- (33) 前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.1754
- (34) 本稿では、ルネサンス建築を古典主義建築として扱うため「古典主義風」要素の分類につき、『建築大辞典第2版』に示されたルネサンス建築の特徴を大いに参考にした（注33に同じ）。
- (35) 注4に同じ
- (36) 前掲注（15）『テキスト建築の20世紀』pp.85～86
- (37) 本稿では、「表現主義風」要素の分類につき、『テキスト建築の20世紀』に示された表現主義の特徴を大いに参考にした（注36に同じ）。
- (38) ソミンラン・ナムキョンスク「日本建築意匠で表すアール・デコの研究」『基礎造形学研究』8（2）、p.227、2007.5
- (39) 本稿では、「アール・デコ風」要素の分類につき、ソミンラン・ナムキョンスクが示したアール・デコ建築の特徴を大いに参考にした（注38に同じ）。
- (40) 前掲注（4）『建築学用語辞典』p.722
- (41) 前掲注（17）『日本の近代建築（下）』p.155
- (42) 前掲注（11）『図説 建築の歴史——西洋・日本・近代』p.136
- (43) 上部を切妻とし、下部の屋根を四方に葺きおろした屋根形式（前掲注（4）『建築学用語辞典』p.34）
- (44) 開口部の一種で上部が曲線をなすものの総称。杏葉^{きょうよう}を原型にしてつくり出した形ともいう。曲線の形は元来炎に似て尖頭アーチ状をなしていたが、後にさまざまの変形が造られて一定しない。鎌倉時代後半の禅宗建築に初めて現れる（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.295）。
- (45) 本稿では、「和風」要素の分類につき、応募図案から多く見られる和風建築の要素を取り上げ、それらを分類項目として扱うこととした。
- (46) 「高く顕れる」の意でインドにおいて遺骨を埋蔵した塚形式の火葬墓。その基本形は円形の石造基壇の上に半球形の石造覆鉢を盛り、その頂上に箱型の平頭（ハルミカ）と相輪（傘蓋）とを立てたもの。周囲を

- 石造の玉垣（欄楯）でめぐらし、塔門（トラーナ）を開く。覆鉢の胴部、稲門、玉垣などは浮彫りが付けられる（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.859）。
- (47) サラセンの装飾文様。元来はアラビア風装飾の意味で、イスラム教では偶像崇拜を禁じていたために唐草などの植物の茎と葉を複雑に分岐複合させて、左右対称の幾何学模様を構成して装飾文様を作り、アッラーやコーランの格言などのアラビア文字を植物に図案化してこれに挿入し、建築、美術品などの至る所に用いた。更に一般に、直物、動物をモチーフとしながら、同様に複雑なパターンを描いているものをこの名で呼ぶ（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.51）。
- (48) 本稿では、「東洋風」要素の分類につき、応募図案から多く見られる和風建築の要素を取り上げ、それらを分類項目として扱うこととした。
- (49) 格狭間こうざまの一。花形模様のあるもの（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.1342）。
- (50) インドのヒンズー教寺院における、本尊を祀る内陣（本殿）の屋根に建てられた高塔という（前掲注（4）『建築学用語辞典』p.280）。
- (51) 本来は柱上にあって軒を支える装置。方形の斗と肘木とによって構成され、両者を交互に組み合わせて前方に持送りとして突き出し、深い軒を広く支える。両者のほかに尾垂木と支輪とが加わることもある。当初は仏教建築と朝堂院や大極殿のような主要な官庁建築のみに見られたものであるが、後には神社建築や住宅建築にも見られるようになる（前掲注（2）『建築大辞典第2版』pp.1178～1179）。
- (52) 梁の上にあっての虹梁、桁、棟木などの上部の荷重を支える横広がりの装飾的部材。蛙が股を広げたような形をしているので、この称がある。その輪郭の曲線と両脚間の彫刻模様は時代と共に顕著に変化したので、建築年代制定の基準としてしばしば使われる（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.249）。
- (53) 大正から昭和にかけて、懸賞競技設計の1等当選案を支配していた様式。中央のドームや塔を中心軸として左右対称にまとまったデザインで、その生気を欠いた定型化を非難して付けられた呼び名。国会議事堂（1936）はその代表的な例（前掲注（2）『建築大辞典第2版』p.605）。